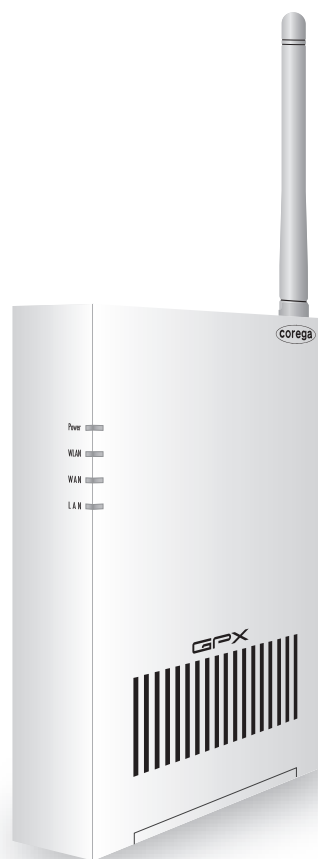
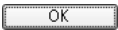
詳細設定ガイド

無線LAN ブロードバンド　ルータ

CG-WLBARGPX

Y613-11105-02 Rev.A

本書の読み方

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

●記号について

警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
注意	操作中に気を付けていただきたい内容です。必ずお読みください。
メモ	補足事項や、参考となる情報を説明しています。

●表記について

本商品	CG-WLBARGPX を示します。
「　」－「　」－「　」	「　」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。
[　　]	[　　] で囲んである文字は画面上のボタンを示します。 例：OK → [OK]

●正式名称について

本書で使用しているソフトウェア名の正式名称は以下のとおりです。

〈Windows〉
Windows .... Microsoft® Windows® Operating system
Windows XP .... Microsoft® Windows® XP Home Edition operating systemおよび
Microsoft® Windows® XP Professional operating system
Windows 2000 .... Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system
Windows Me .... Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system
Windows 98SE .... Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system

●イラスト、画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

目次

PART 1 こんなときにはこの設定

このPARTでは、本商品をより便利に活用していただくための設定方法について説明します。これらはすべてパソコンがすでにネットワークに接続済みの状態であることを前提とした説明となりますので、まだ接続していない場合は、付属の「お使いの手引き」または本書の「パソコン、モデムと本商品を有線で接続する」（P.18）の手順を行ってからお読みください。

設定画面を起動するには

本商品の設定画面を使用するにはWebブラウザが必要です。また、設定時には本商品に接続されているパソコンのうちの1台から設定作業を行います。Web ブラウザには Internet Explorer 5.5 以降または Safari 1.2 以降をご利用ください。そのほかの Web ブラウザでは、正常に設定が行えない場合があります。

●パソコンのTCP/IPを設定する

本商品の設定画面を起動するには、接続するパソコンのネットワークの設定が次のようになっている必要があります。

・TCP/IP の設定が IP 自動取得になっていること。
・ネットワークアダプタが正常に動作していること。

次の手順では、パソコンのTCP/IP の設定方法とネットワークアダプタの確認方法をご紹介します。この手順は LAN ケーブルを使って本商品とパソコンを接続する場合を例としています。

●Windows XPで利用する

この作業は「コンピュータの管理者」または同等の権限をもつユーザ名でログオンして行ってください。ユーザ権限については、OS の取扱説明書をご覧ください。

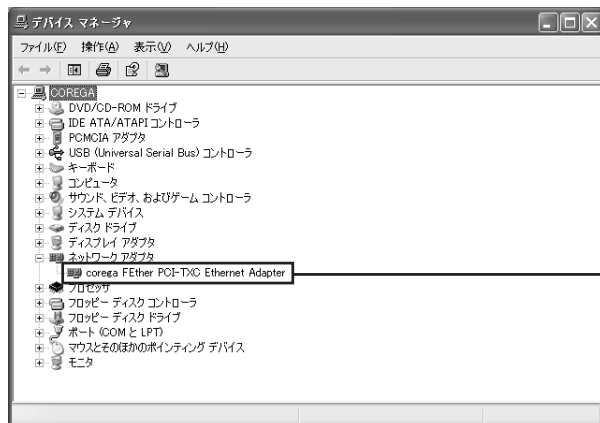
■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

1 「スタート」－「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

2 「ハードウェア」タブを選択し、［デバイスマネージャ］をクリックします。

3 「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

4　ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

注意　「×」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をご覧いただき、正常な状態にしてください。

5「デバイスマネージャ」を閉じます。

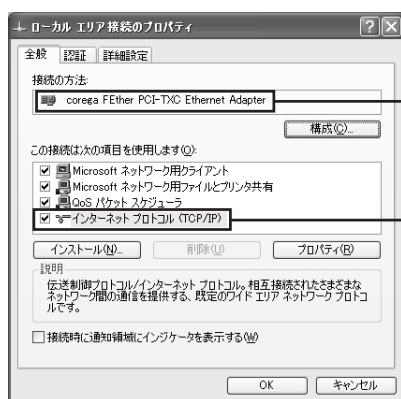
■TCP/IP プロトコルを確認する

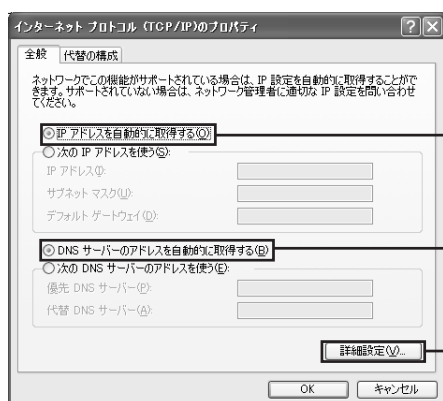
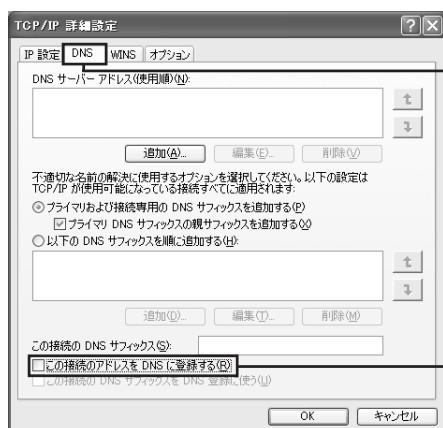
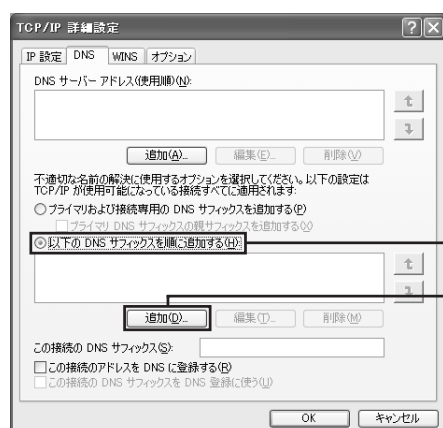
1　「スタート」－「コントロールパネル」の順に選択します。

2　「コントロールパネル」の「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。「ネットワークとインターネット接続」が表示されていない場合は、画面左側の「カテゴリの表示に切り替える」をクリックしてください。

3　「ネットワーク接続」をクリックします。

4　「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

5　「全般」タブの「インターネットプロトコル（TCP/IP)」にチェックが付いているか確認します。

6　「インターネットプロトコル（TCP/IP)」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

7 「全般」タブの「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、［詳細設定］をクリックします。

8 「TCP/IP 詳細設定」画面の「DNS」タブを選択し、「この接続のアドレスをDNSに登録する」のチェックを外します。

注意 プロバイダからドメイン名も指定されている場合は、「以下の DNS サフィックスを順に追加する」を選択し、［追加］をクリックして指定されたドメイン名を入力してください。

9 「TCP/IP 詳細設定」画面の［OK］をクリックします。

10「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

11「ローカルエリア接続のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

12 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メモ　メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

次に「Web ブラウザの設定をする」（P.16）に進みます。

●Windows 2000で利用する

注意　この作業は「Administrator」または同等の権限を持つユーザ名でログインして行ってください。ユーザ権限については、OS の取扱説明書をご覧ください。

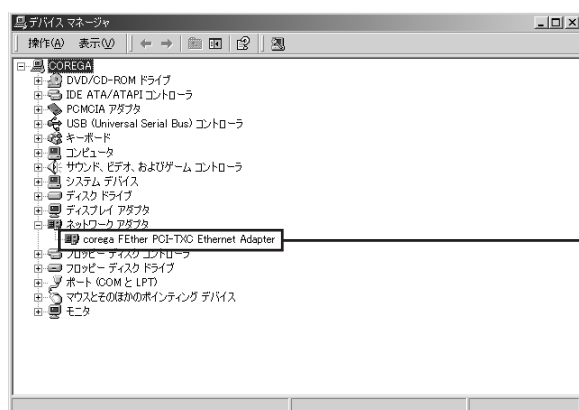
■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

1 デスクトップにある「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

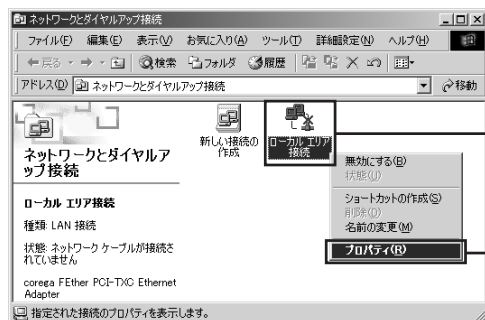
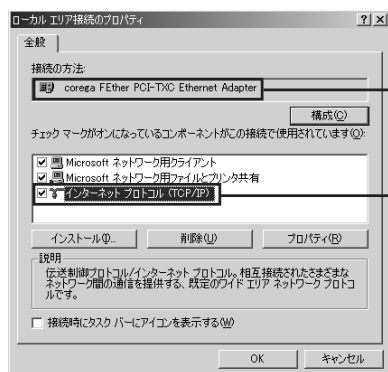
2 「ハードウェア」タブを選択し、［デバイスマネージャ］をクリックします。

3 「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

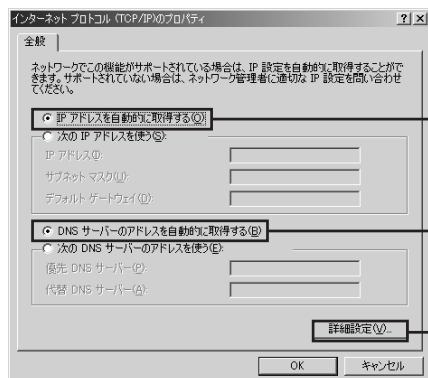
4 ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

注意　「×」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。

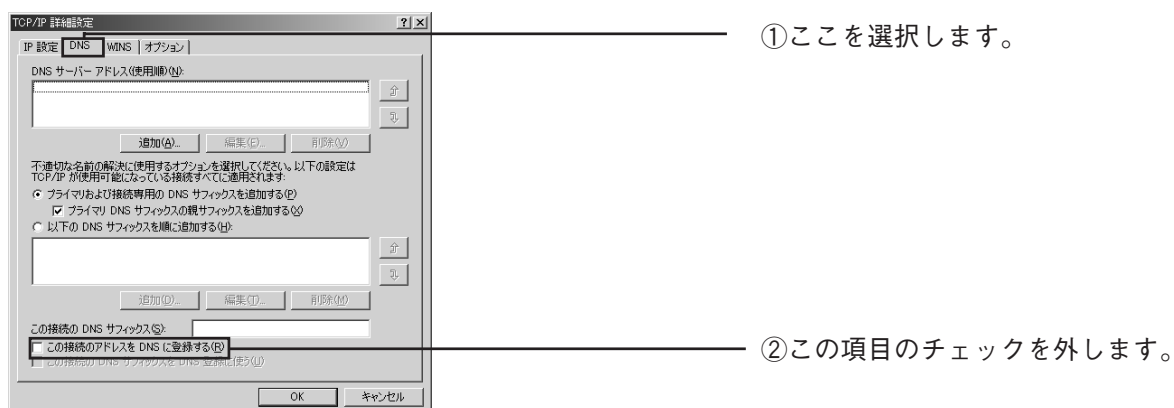
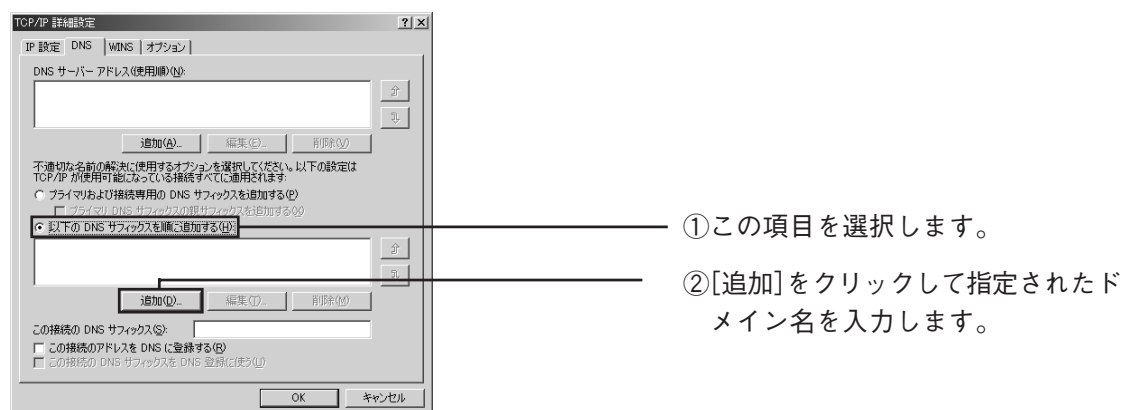
5 「デバイスマネージャ」を閉じます。

■TCP/IP プロトコルを確認する

1 「スタート」－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。

2 「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

3 「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が有効になっていることを確認します。

メモ 「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が一覧にない場合は、「TCP/IP をインストールする」（P.11）をご覧ください。

4 「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

5 「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、［詳細設定］をクリックします。

6 「TCP/IP 詳細設定」画面の「DNS」タブを選択し、「この接続のアドレスをDNSに登録する」のチェックを外します。

注意 プロバイダからドメイン名も指定されている場合、「以下のDNSサフィックスを順に追加する」を選択し、［追加］をクリックして指定されたドメイン名を入力してください。

7 「TCP/IP 詳細設定」画面の［OK］をクリックします。

8 「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

9 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

10 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メモ メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

次に「Web ブラウザの設定をする」（P.16）に進みます。

■ TCP/IP をインストールする

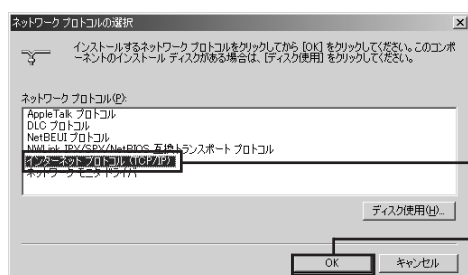
TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1 「スタート」－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。

2 「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

3 「ローカルエリア接続のプロパティ」の［インストール］をクリックします。

4 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」が表示されたら「プロトコル」を選択し、［追加］をクリックします。

5 「ネットワークプロトコルの選択」が表示されたら「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［OK］をクリックします。

6 「ローカルエリア接続のプロパティ」の「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が有効になっていることを確認し、［OK］をクリックして画面を閉じます。

7 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メモ **メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。**

インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順４（P.9）からの設定を行ってください。

●Windows Me／98SEで利用する

■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

1　デスクトップの「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

2　「デバイスマネージャ」タブをクリックし、表示されたハードウェアデバイスの一覧から「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

3　ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

・「×」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。
・「Microsoft 仮想プライベートネットワークアダプタ」、「ダイヤルアップアダプタ」などのアダプタ名が表示されていることがありますが、これらは本商品で使用するネットワークアダプタと関係ありません。

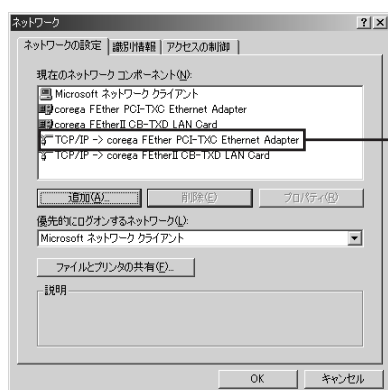
■ TCP/IP プロトコルを確認する

ここでは例としてWindows Meを使用していますが、Windows 98SEをご使用の場合も手順は同様です。

1　「スタート」－「設定」－「コントロールパネル」の順に選択します。

2　「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックします。

メモ
Windows Meの場合、よく使うコントロールパネルのオプションだけが表示されている場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックすると、「ネットワーク」が表示されます。

3 「ネットワークの設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」欄に「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が表示されていることを確認します。

※画面は例です。

・「TCP/IP－＞」の横に表示される名称は、ご使用になっているネットワークアダプタのメーカ、機種によって異なります。

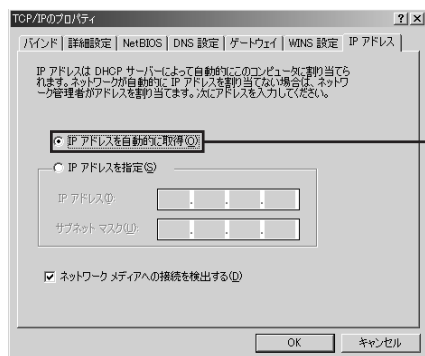
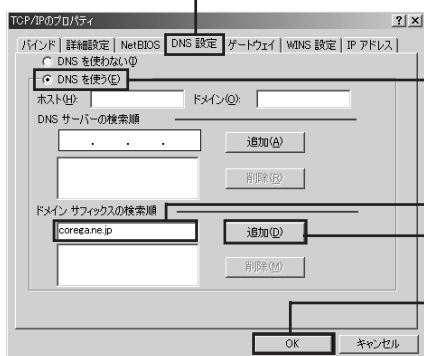
・ダイヤルアップアダプタがない場合は「インターネットプロトコル（TCP/IP）」、「TCP/IP」などと表示される場合もあります。

「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が表示されていなかった場合は、「TCP/IPをインストールする」（P.15）をご覧ください。

4 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

メモ

「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が複数表示されている場合は、ご使用になるネットワークアダプタを選択します。

5 「IP アドレス」タブの「IP アドレスを自動的に取得」を選択します。

プロバイダからドメイン名も指定されている場合、「DNS 設定」タブの「DNS を使う」を選択し、「ドメインサフィックスの検索順」の欄に指定されたドメイン名を入力して［追加］をクリックしてください。

6 「TCP/IP のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

7 「ネットワーク」画面の［OK］をクリックします。

WindowsのOS用ディスクを入れるようにダイアログが表示された場合は、CD-ROMドライブ（またはフロッピーディスクドライブ）に Windows の OS 用ディスクを挿入し、メッセージにしたがって操作します。操作後、再起動を促すメッセージが表示されたら再起動します。

次に「Web ブラウザの設定をする」（P.16）に進みます。

■TCP/IP をインストールする

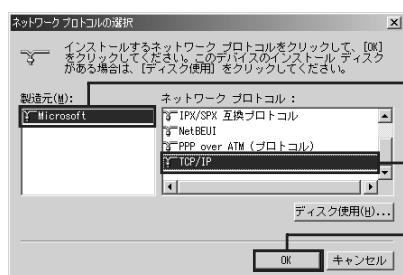
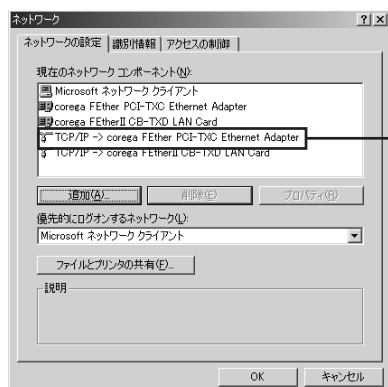
TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1 「スタート」－「設定」－「コントロールパネル」の順に選択します。

2 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックします。

3 「ネットワーク」の［追加］をクリックします。

4 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」で「プロトコル」を選択し、［追加］をクリックします。

5 「ネットワークプロトコルの選択」の「製造元」から「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」の一覧から「TCP/IP」を選択して［OK］をクリックします。

6 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧に「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名)」が追加されていることを確認します。

※画面は例です。

- 「TCP/IP－＞」の横に表示される名称は、ご使用になっているネットワークアダプタのメーカ、機種によって異なります。
- ダイヤルアップアダプタがない場合は「インターネットプロトコル（TCP/IP）」、「TCP/IP」などと表示される場合もあります。

7 ［OK］をクリックして「ネットワーク」画面を閉じると、再起動を促すメッセージが表示されますので再起動します。

- メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。
- WindowsのOS用ディスクを入れるようにダイアログが表示された場合は、CD-ROMドライブ（またはフロッピーディスクドライブ）にWindowsのOS用ディスクを挿入し、メッセージにしたがって操作します。操作後、再起動を促すメッセージが表示されたら再起動します。

インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順４（P.13）からの設定を行ってください。

●Webブラウザの設定をする

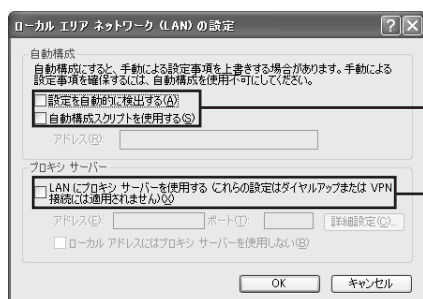
本商品を利用できるようにWebブラウザの設定を行います。ここではInternet Explorer 6.0の場合の設定方法を例に説明しています。そのほかのWebブラウザの場合は、Webブラウザのヘルプなどをご覧いただき、設定してください。

1 Internet Explorerを起動し、「ツール」－「インターネットオプション」をクリックします。

2 「インターネットオプション」が表示されたら「接続」タブを選択します。

メモ このとき「ダイヤルアップと仮想プライベートネットワークの設定」で「ダイヤルしない」が選択されていることをご確認ください。

3 ［LANの設定］をクリックします。

4 「ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定」の「設定を自動的に検出する」、「自動構成スクリプトを使用する」、「LANにプロキシサーバーを使用する」のチェックを外します。

5 ［OK］をクリックします。

6 「インターネットオプション」の［OK］をクリックします。

次に「パソコンと本商品を接続する」（P.17）に進みます。

●パソコンと本商品を接続する

■本商品を設置する場所について

・付属の「お使いの手引き」をご覧いただき、使用時の注意などについてご確認ください。
・本商品の側面にある通気口は、放熱のため塞がないでください。

〈設置に適した場所〉

・水平で落下のおそれがない場所（机の上など）
・風通しのよい涼しい場所

〈設置に適さない場所〉

・直射日光が当たる場所
・暖房器具の近くなど
・高温多湿でホコリの多い場所
・パソコンやモデムなど、発熱する機器の上

■本商品の電源を入れるには

〈本商品の電源の取り方〉

本商品の電源は、たこ足配線などを避け、ほかの機器と別系統で取るようにしてください。必ず付属の専用ACアダプタを使用し、AC100Vの電源コンセントに接続してください。それ以外のACアダプタやコンセントを使用すると、発熱による発火や感電のおそれがあります。

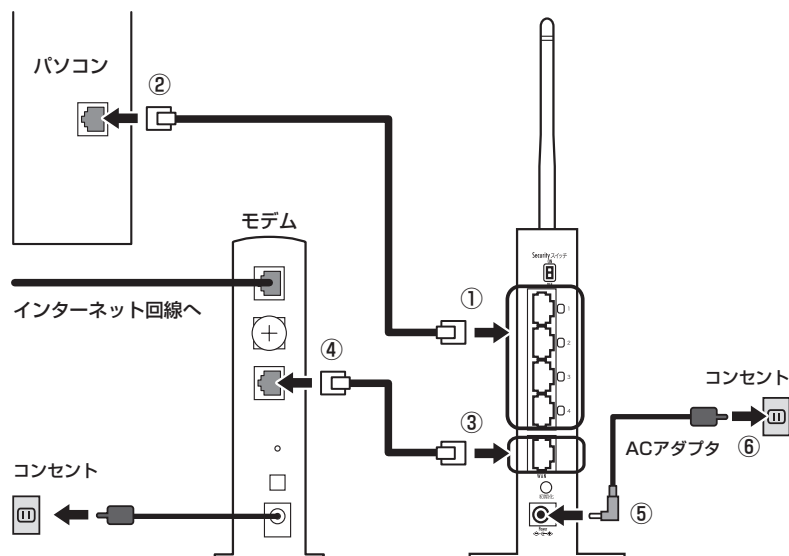
〈本商品の電源の入れ方／切り方〉

本商品背面のDCジャックにACアダプタのDCプラグを接続し、電源プラグを電源コンセントに差し込むと電源が入ります。ACアダプタの電源プラグを電源コンセントから抜くと電源が切れます。

・本商品には電源スイッチがありません。電源プラグを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。
・ACアダプタの電源プラグを電源コンセントに差し込んだままDCプラグを抜かないでください。感電事故を引き起こすおそれがあります。

■パソコン、モデムと本商品を有線で接続する

有線接続をする場合や二台目以降のパソコンを設定する場合は、本商品とモデム･パソコンなど、ネットワーク接続する機器をLANケーブルで接続します。

・本商品とパソコンを接続するLANケーブルの長さは100m以内にしてください。
・本商品とパソコンを接続するLANケーブルは、100BASE-TXで接続する場合はカテゴリ5以上、10BASE-Tで接続する場合はカテゴリ3以上のLANケーブルを使用してください。
・無線での接続方法は、付属の「お使いの手引き」をご覧ください。

1 本商品、モデムまたは回線終端装置、パソコンなどネットワーク接続する機器の電源をすべて切るか、電源コンセントから抜きます。

2 本商品背面のLANポートにLANケーブルを接続します（①)。

3 LANケーブルのもう一端をパソコンのLANポートに接続します（②)。

4 本商品背面のWANポートに付属のLANケーブルを接続します（③)。

5 モデムまたは回線終端装置のネットワークポート（RJ-45）にLANケーブルのもう一端に接続します（④)。

メモ　モデムのポート名は「LAN」「PC」「パソコン」「ENET」「Ethernet」など、機種によって異なります。

6 モデムまたは回線終端装置の電源を入れます。

7 本商品背面のDCジャックに専用ACアダプタを接続します（⑤)。

8 本商品の専用ACアダプタをコンセントに接続し、本商品の電源を入れます（⑥)。

9 本商品前面のPower LEDが点灯→点滅→点灯と変わり、ルータが起動したことを確認します。

メモ　ルータが起動するまでにおよそ2分程度かかります。ルータの起動が完了するまでしばらくお待ちください。

10 ルータの起動後、パソコンの電源を入れます。

11 本商品背面のLAN LEDのうち、ケーブルを接続したポートのLANポートLEDが点灯（または点滅）していることを確認します。

●設定画面を起動する

・本商品を設定する場合には、本商品と設定用パソコンのみを接続して設定することをお勧めします。
・設定用パソコンでウイルス駆除ソフト、ファイアウォールソフトなどのセキュリティソフトが起動していると、本商品の設定に失敗することがあります。一時的にセキュリティソフトを停止させて本商品の設定を行い､設定作業が終了してから再度起動させてください｡セキュリティソフトの停止・起動の方法は、セキュリティソフトの取扱説明書をご覧ください。

1　本商品に接続したパソコンで、Internet Explorer を起動します。

このとき手順 3 の画面が表示された場合は、そのまま手順 3 へお進みください。

2　アドレス入力欄に「192.168.1.1」と入力し、キーボードの「Enter」キーを押します。

ルータ機能が「無効」に設定されている場合や、本商品の LAN 側の IP アドレスを変更されている場合は、変更後の IP アドレスを入力してください。また、Internet Explorer でお気に入りに登録している場合は、お気に入りの「CG-WLBARGPX」をクリックします。

3　ユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されたら、ユーザ名の欄に｢root｣と入力し、[ログイン] をクリックします。

・工場出荷時の状態では、ユーザ名は｢root｣に設定されています。パスワードは設定されていません。
・ユーザ名、パスワードは変更できます。詳しくは｢本商品のログイン名（ユーザ名）、パスワードを変更したいときは」（P.40）をご覧ください。

4　設定画面が起動します。

●Macintoshで利用する

Mac OS X（10.4 以降）、Safari 1.2 以降をご利用の場合は、コレガホームページ（http://corega.jp/）から「サポート情報」－「各種マニュアル」－「ブロードバンドルータ」の順に選択し、補足説明書「Mac OS X（10.3 以降）での設定ユーティリティへのアクセス方法」をご覧ください（2007 年 1 月現在）。

URL：http://corega.jp/support/manual/router.htm

無線LANセキュリティを設定するには

無線LANではデータの通信に電波を利用しているため、電波が届く範囲であれば、通信内容を傍受されたり、不正侵入されるおそれがあります。本商品では、これらの対策として次のようなセキュリティ機能を搭載しています。

●本商品で設定できるセキュリティ機能

【SSID（Service Set IDentifier）】
無線LANに接続する機器を識別するネットワークグループ名です。ESSIDと呼ばれることもあります。同じSSIDを持つ無線LAN機器同士でしか通信できないため、独自のSSIDを設定することにより、外部から不正侵入される危険が減少します。

【ステルスAP】
本商品のSSIDを無線LANアダプタから見えなくすることにより、外部から不正侵入される危険が減少します。

【アクセス制限】
本商品に無線LANでアクセスすることができる無線LANアダプタをMACアドレスで制限します。PCデータベースにMACアドレスが登録されていない無線LANアダプタは本商品に接続できなくなります。

【WEP（Wired Equivalent Privacy）】
通信内容を暗号化し、通信内容の傍受を防ぐセキュリティ機能です。仮に通信データを傍受された場合でも、通信内容の復元を容易に行うことができなくなります。64Bit、128Bit、152Bitの３種類があり、ASCII文字（半角英数記号）やHEX（16進数：0～9、a～f）を入力し暗号キーを作成します。

【WPA（Wi-Fi Protected Access）】
通信内容を設定した暗号キーを使って暗号化するセキュリティ機能の一つです。暗号キーは一定時間ごとに変わるTKIPを採用しており、WEPよりも解読されにくくなります。本商品では家庭でご利用できる「WPA-PSK（Personal）」の設定ができます。

【WPA2（Wi-Fi Protected Access 2）】
WPA2は、Wi-Fi Allianceが2004年９月に発表したWPAの新しい規格です。米標準技術局（NICT）が定めた暗号化標準の「AES」を採用しており、128～256 Bitの可変調キーを利用しての強力な暗号化が可能です。そのほかの仕様についてはWPAとほとんど変わらないので、WPAとWPA2との混在した環境で利用できます。

- セキュリティ設定は、通信相手の機器に合わせて同じ内容の設定を行ってください。
- WEPとWPAまたはWPA2との併用はできません。

●SSIDを設定する

SSID を設定するには、次の手順を行います。

1　設定画面を起動し、「LAN 側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11g/b 設定」の順に選択します。

2　次のように設定します。

①「ネットワーク名(SSID)」に設定したい文字列を半角英数字で入力します。

半角英数記号で最大 32 文字まで入力できます。

② [設定] をクリックします。

3　設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

4　本商品に設定した SSID と同じ文字列を、接続する無線 LAN アダプタに設定します。

無線LANアダプタのSSIDの設定については、ご使用の無線LANアダプタの取扱説明書をご覧ください。

●ステルスAPを設定する

ステルス AP を設定すると、本商品の SSID を無線 LAN アダプタから検索できなくなります。ステルス AP を設定するには、次の手順を行います。

1　設定画面を起動し、「LAN 側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11g/b 設定」の順に選択します。

2　次のように設定します。

①「ステルスAP」を「有効」にします。

② [設定] をクリックします。

3　設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

本商品と同じ SSID を設定している無線 LAN アダプタからは、本商品の SSID を確認することができます。

●アクセス制限を設定する

本商品に接続できる無線LANアダプタを、MACアドレスで制限することができます。アクセス制限を設定するには、次の手順を行います。

1　設定画面を起動し、「LAN側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「アクセス制限」の順に選択します。

2　次のように設定します。

①「MACアドレスフィルタリング」を「有効」にします。

②下に表示されるクライアントリストのうちで、アクセスを許可したい無線LANパソコンにチェックを付けます。

メモ　**許可したい無線LANパソコンがクライアントリストに表示されていない場合は、MACアドレスを手動で登録してください。設定項目の詳細については「アクセス制限」（P.70）をご覧ください。**

③［設定］をクリックします。

3　設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

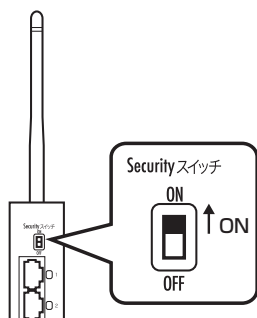
●暗号化を設定する

無線LANの通信内容を暗号化して、傍受されても内容を解析されにくくすることができます。暗号化を設定するには、次の手順を行います。

- 本商品に暗号化を設定した場合、本商品に接続する無線LANアダプタにも同じ暗号化を設定する必要があります。
- WEPとWPAまたはWPA2との併用はできません。

■ WEPを設定する

WEPを設定するには、次の手順を行います。

1　本商品背面のSecurityスイッチを「ON」にし、電源を入れ直します。

2　設定画面を起動し、「LAN側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11g/bセキュリティ設定」の順に選択します。

3　次のように設定します。

①認証方式から「Open System」または「Shared Key」を選択します。

②暗号方式から「WEP」を選択します。

③暗号化から「64Bit-16進数(0～9/a～f)10桁」、「128Bit-16進数(0～9/a～f)26桁」、「152Bit-16進数(0～9/a～f)32桁」、「64Bit-ASCII(半角英数記号)5文字」、「128Bit-ASCII(半角英数記号)13文字」、「152Bit-ASCII(半角英数記号)16文字」のいずれかを選択します。

メモ　ASCIIで入力できる半角英数字は、0～9、a～z、! ” # $ % & ’ ( ) * + . - , / : ; < > ? @ [¥] . ^ _ { ¦ } . です。

④キー1～キー4に手順4で選択した文字数で任意の文字列を入力し、そのうちの1つを選択します。

「128Bit」、「152Bit」を選択した場合は、キー1のみ使用することができます。

⑤[設定]をクリックします。

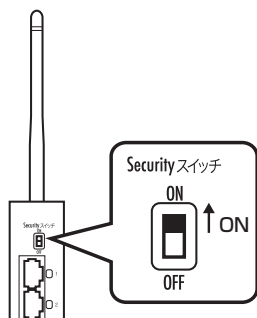
4　設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

5　本商品に設定した暗号化の設定と同じ設定を、接続する無線LANアダプタに設定します。

無線LANアダプタの暗号化の設定は、お使いの無線LANアダプタの取扱説明書をご覧ください。

■WPA-PSK、WPA2-PSK を設定する

WPA-PSK、WPA2-PSK を設定するには、次の手順を行います。

1　本商品背面の Security スイッチを「ON」にし、電源を入れ直します。

2　設定画面を起動し、「LAN 側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11g/b セキュリティ設定」の順に選択します。

3　次のように設定します。

①認証方式から「WPA2-PSK」または「WPA/WPA2-PSK」を選択します。

②暗号化から「自動（AES/TKIP）」、「AES」のいずれかから選択します。

WPA2-PSK の暗号化は「AES」のみとなります。

③WPA共有キーの「ASCII文字（8～63文字）」を選択し、入力欄に半角英数字記号で8～63文字の任意の文字列を入力します。

入力できる半角英数字は、0～9、a～z、! ” # $ % & ’ ( ) * + . - , / : ; < > ? @ [¥] . ^ _ { ¦ } . です。

④［設定］をクリックします。

4　設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

5　本商品に設定した暗号化の設定と同じ設定を、接続する無線 LAN アダプタに設定します。

メモ

無線 LAN アダプタの暗号化の設定は、お使いの無線 LAN アダプタの取扱説明書をご覧ください。

ネットワークゲームをするには

ネットワークゲームは、ゲームサーバとデータの送受信を行う特定のポートを利用するため、本商品にUPnP設定やDMZ設定などを行う必要があります。

お使いの回線やプロバイダによっては、ネットワークゲームに対応していない場合がありますので、ご注意ください。

●UPnPに対応しているネットワークゲームの場合

本商品はUPnP※に対応しておりますので、UPnPに対応したネットワークゲームであれば自動的に本商品の設定が行われます。本商品のUPnPの設定は、次の手順を行います。
※ UPnP機能はWindows XPで使用できます。

1　設定画面を起動し、「詳細設定」－「UPnP」の順に選択します。

2　次のように設定します。

①「UPnPを使用する」から「有効」を選択します。

② [設定] をクリックします。

3　設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

WindowsのUPnP（ユニバーサル プラグ アンド プレイ）に関するセキュリティの脆弱性が発見されています。本商品のUPnPを設定する前に、Windowsの修正プログラムをインストールしてください。詳細な設定方法は、Microsoftにお問い合わせください。

●UPnPに対応していないネットワークゲームの場合

UPnPに対応していないネットワークゲームの場合は、次の手順で設定します。

1　設定画面を起動し、「詳細設定」－「DMZ」の順に選択します。

2　次のように設定します。

①「DMZホスト」から使用するパソコンを選択します。

「DMZホスト」に設定したいパソコンが表示されない場合は、「PCデータベース」（P.63）でパソコンを手動で登録してください。

② [設定] をクリックします。

3　設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

DMZ 機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

音声／ビデオチャットなどのツールを使うには

ここでは代表的なソフトとして、NetMeeting、MSN Messengerを利用する場合の設定を説明しています。本商品は、NetMeeting、MSN Messenger（Ver.7.0以降）、Windows Live Messenger（Ver.8.0）に対応しています。ソフトの使用方法は、各ソフトのヘルプやホームページをご覧ください。

MSN Messenger、NetMeeting は 1 台のパソコンでのみ使用できます。

●NetMeeting

NetMeetingを使用するにはDMZ機能を設定します。次の手順で設定してください。

1　設定画面を起動し、「詳細設定」－「DMZ」の順に選択します。

2　次のように設定します。

①「DMZホスト」から使用するパソコンを選択します。

「DMZ ホスト」に設定したいパソコンが表示されない場合は、「PCデータベース」（P.63）でパソコンを手動で登録してください。

②［設定］をクリックします。

3　設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

DMZ 機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

●MSN Messenger(Ver.7.0以降)／Windows Live Messenger(Ver.8.0)

本商品はUPnPに対応しておりますので、Windows XPでMSN Messengerを利用する場合は、自動的に本商品の設定が行われます。本商品のUPnPの設定を無効にしている場合は、次の手順でUPnPを有効に設定してください。

1　設定画面を起動し、「詳細設定」－「UPnP」の順に選択します。

2　次のように設定します。

①「UPnPを使用する」から「有効」を選択します。

② [設定] をクリックします。

3　設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

メモ
- **MSN Messenger は Ver.7.5 で動作確認しております。**
- **UPnP 対応 MSN Messenger の対応 OS は Windows XP Service Pack1（SP1）以降です。**

また、Windows 2000でMSN Messengerを利用する場合はDMZ機能を使います。次の手順で設定してください。

1　設定画面を起動し、「詳細設定」－「DMZ」の順に選択します。

2　次のように設定します。

①「DMZホスト」から使用するパソコンを選択します。

メモ
「DMZ ホスト」に設定したいパソコンが表示されない場合は、「PCデータベース」（P.63）でパソコンを手動で登録してください。

② [設定] をクリックします。

3　設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

注意
DMZ 機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

ポートを開放するには

●バーチャルサーバを使用する

バーチャルサーバ機能を利用してポートを開放し、外部にサーバを公開することができます。公開するには次の手順で設定してください。

1　設定画面を起動し、「詳細設定」－「バーチャルサーバ」の順に選択します。

2　次のように設定します。

①「接続先」からサーバにするパソコンを選択します。

・「接続先」に設定したいパソコンが表示されない場合は、「PC データベース」（P.63）でパソコンを手動で登録してください。
・設定するパソコンが IP 自動取得の場合は IP 固定に変更されます。

②公開するサーバに合わせて「サービス」を設定します。

メモ

・「ポート範囲」、「プロトコル」は「サービス」で「ユーザ定義」を選択した場合に設定します。
・例では Web サーバを公開する設定をしています。

③「備考」に「WEBサーバ」と入力します。

④［登録］をクリックします。

3　設定画面更新後に下に表示されるバーチャルサーバリストに設定した内容が登録されたことを確認します。

4　画面右上の［ログアウト］をクリックします。

外部にネットワークカメラ(カメラサーバ)の映像を公開するには

本商品にコレガ製ネットワークカメラを接続して、撮影した画像をインターネット上に配信することができます。その場合は、「PCデータベース」(P.63)、「バーチャルサーバ」(P.76)、「ダイナミックDNS」(P.59)などの設定を行う必要があります。

詳しい解説をホームページからご覧になることができます。コレガホームページ(http://corega.jp/)から「製品情報」－「導入ナビゲーション」の順に選択し、お助けコレガくんシリーズ「ダイナミックDNS活用ガイド」をご覧ください(2007年1月現在)。

URL：http://corega.jp/product/navi/ddns/

マルチPPPoEで2つの接続先を使い分けるには

●プロバイダとフレッツ・スクウェアに接続する

マルチ PPPoE でフレッツ・スクウェアの設定を行うと、通常のプロバイダと「フレッツ・スクウェア」へ同時に接続することができます。

1　設定画面を起動し、画面左側のメニューから「簡単設定」を選択します。

2　［次へ］をクリックします。

3　「手動」を選択し、［次へ］をクリックします。

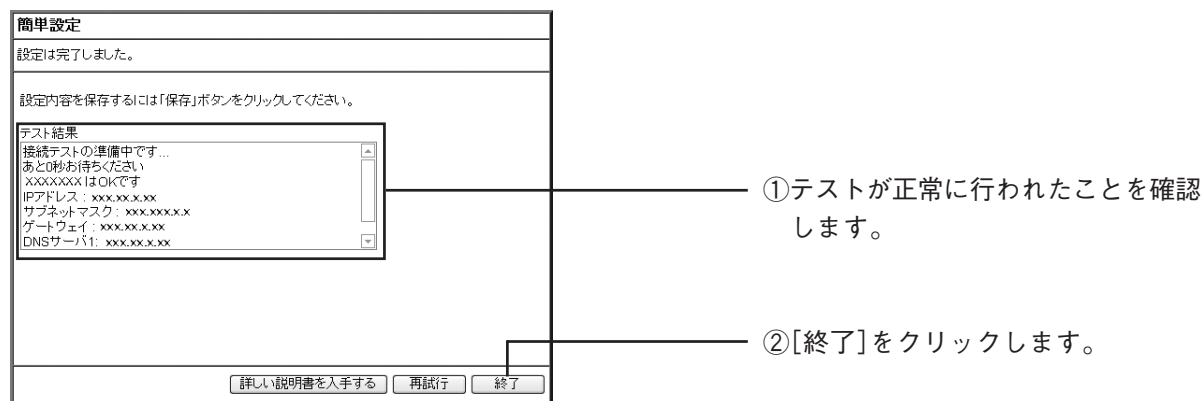
4　「PPPoE（FLET'S シリーズ）」を選択し、［次へ］をクリックします。

5 「接続ユーザ名」「接続パスワード」「パスワードの確認」を入力し、[次へ] をクリックします。

6 フレッツ・スクウェアから契約している地域、「東日本」または「西日本」を選択し、[次へ] をクリックします。

地域を選択すると、フレッツ・スクウェアの接続ユーザー名、接続パスワードが自動的に入力されます。

7 [保存] をクリックし、接続テストを行います。

8　テストが正常に行われたことを確認し、［終了］をクリックします。

●複数固定IPサービスを利用するには(Unnumbered IP／Unnumbered IP + Private IP)

各プロバイダがPPPoE回線で提供する複数固定IPアドレスサービスを利用することにより、プロバイダから割り当てられた複数のグローバル固定IPアドレスを本商品および本商品に接続するパソコンに設定して、サーバの公開などを行うことができます。

■Unnumbered IP

本商品に、グローバル固定IPのパソコンのみを接続する場合に設定します。

メモ
ここでは以下の設定を例に説明します。
・本商品の元の設定
IPアドレス：192.168.1.1
サブネットマスク：255.255.255.0

・プロバイダからの設定情報
IPアドレス：「XXX.○○○.□□□.113～XXX.○○○.□□□.120」
サブネットマスク：255.255.255.◆◆◆
DNSサーバ：12.34.56.12

・設定するパソコンのIPアドレス
「XXX.○○○.□□□.115」

1　設定画面を起動し、「WAN側設定（インターネット）」－「PPPoE」を選択し、[セッション-1設定]の順に選択します。

2　次のように設定します。

①「アカウント選択」は任意のアカウントを選択します。

②「接続ユーザーID」と「接続パスワード」を入力します。

③「PPPoEサービス・タイプ」は「Unnumbered IP」を選択します。

④「ルータIP」は「XXX.○○○.□□□.114」と入力します（プロバイダから割り当てられた最初のIPアドレスはネットワークアドレスのため、次のIPアドレスが入ります）。

⑤サブネットマスク→「255.255.255.◆◆◆」と入力します。

⑥DNSサーバ→「マニュアル設定」を選択し、「DNSサーバ1」に「12.34.56.12」と入力します。

⑦[設定]をクリックします。

3　設定するパソコンの固定IPアドレスを以下のように変更します。

・IPアドレスは「XXX.○○○.□□□.115」と入力します(設定したいIPアドレス)。
・サブネットマスクは「255.255.255.◆◆◆」と入力します。
・デフォルトゲートウェイは「XXX.○○○.□□□.114」と入力します(ルータIPと同じ)。
・DNSサーバは「12.34.56.12」と入力します。

メモ　**パソコンのTCP/IPの変更方法については、本書の「パソコンのTCP/IPを設定する」(P.5)をご覧いただくか、各OSの取扱説明書をご覧ください。**

4　本商品の設定画面に再度アクセスする場合は、Webブラウザのアドレス欄に入力するIPアドレスを「WAN側設定(インターネット)」で設定した「XXX.○○○.□□□.114」と入力します。

詳しくは、「PART2　設定画面を見てみよう」の「PPPoE」(P.52)をご覧ください。

■Unnumbered IP + Private IP

本商品に、グローバル固定IPのパソコンのほかにプライベートIPのパソコンを接続する場合に設定します。

1　設定画面を起動し、「WAN側設定(インターネット)」－「PPPoE」を選択し、[セッション-1設定]の順に選択します。

2　PPPoEサービス・タイプ→「Unnumbered IP + Private IP」を選択します。

3　その他のルータの設定は、Unnumbered IP(P.35)と同じです。

メモ　**パソコンのTCP/IPの変更方法については、本書の「パソコンのTCP/IPを設定する」(P.5)をご覧いただくか、各OSの取扱説明書をご覧ください。**

4　グローバル固定IPを設定したパソコンから本商品の設定画面にアクセスする場合は、Webブラウザのアドレス欄に「WAN側設定(インターネット)」で設定した「XXX.○○○.□□□.114」と入力します。

5　プライベートIPを使用するパソコンから本商品の設定画面にアクセスする場合は、Webブラウザのアドレス欄に「192.168.1.1」と入力します。

詳しくは、「PART2　設定画面を見てみよう」の「PPPoE」(P.52)をご覧ください。

ダイナミックDNSを使用してURLで接続するには

本商品に接続したパソコンをバーチャルサーバなどでサーバ公開している場合に、通常は接続のたびに変更されるグローバルIPでアクセスする必要がありますが、ダイナミックDNSを使用することで常に同じダイナミックDNS名でアクセスすることができるようになります。
ダイナミックDNSを使用するには、次の手順を行います。また、本商品に接続したパソコンがインターネットに接続できる必要があります。

1　ダイナミックDNSサービスに未登録の場合は、「corede.net」（無料／日本語ページ）、「DynDNS.org」（無料／英語ページ）、「IvyNetwork」（有料／日本語ページ）のいずれかのサービスに登録します。
詳しい解説をホームページからご覧になることができます。コレガホームページ（http://corega.jp/）から「製品情報」－「導入ナビゲーション」の順に選択し、お助けコレガくんシリーズ「ダイナミックDNS活用ガイド」をご覧ください（2007年1月現在）。
URL：http://corega.jp/product/navi/ddns/

・本商品が対応するダイナミックDNSサービスは、「corede.net」、「DynDNS.org」、「IvyNetwork」、「@Net DDNS」のみとなります。
・「DynDNS.org」、「IvyNetwork」、「@Net DDNS」が運用するダイナミックDNSサービスについては、コレガのサポート対象外となります。
・「@Net DDNS」は@Net Home会員のみのサービスとなります。ご利用いただく場合は、あらかじめ@Net Home加入者サポートページよりダイナミックDNSサービスをお申し込みください。

2　設定画面を起動し、「WAN側設定（インターネット）」－「ダイナミックDNS」の順に選択します。

3　次のように設定します。

①使用するダイナミックDNSを選択します。

②「ログイン名」、「ログインパスワード」、「ドメイン名」の各欄にダイナミックDNSサービスに登録した情報を入力します。

③[設定]をクリックします。

ここでは以下の設定を例に説明します。
・使用するダイナミック DNS
DynDNS
・ドメイン名
coreddns.dynalias.net

4　設定画面更新後、画面右上の［ログアウト］をクリックします。

以上で設定は終了です。詳しくは、「PART2 設定画面を見てみよう」の「ダイナミックDNS」(P.59)をご覧ください。

無線アクセスポイントとして使用するには

アッカ・ネットワークスやイー・アクセス、NTTなどのルータ機能付きモデムをお使いの場合は、本商品のルータ機能を無効にすることで、ルータ付きモデムの設定をそのままで本商品を無線アクセスポイントとしてお使いいただくことができます。

ここで紹介する手順を行なう前に、ルータ機能付きモデムとパソコンのみを接続して、問題なく通信ができるかご確認ください。ルータ機能付きモデムの接続および設定方法については、お使いのモデムの取扱説明書をご覧ください。

・本商品のルータ機能を無効にした場合、本商品のIPアドレスは自動的に「192.168.1.220」に変更されます。
・本商品のルータ機能を再び有効にした場合、本商品のIPアドレスは自動的に「192.168.1.1」に変更されます。
・ルータ機能付きモデムと接続する場合、「簡単設定」(P.50)から設定することもできます。詳しくは、付属の「お使いの手引き」の「PART2 設定する - ルータをお使いの環境にあわせて設定する」の「ほかにルータがある場合」をご覧ください。

1　設定画面を起動し、「モード」を選択します。

2　次のように設定します。

①「ルータ機能」を「無効」にします。

② [設定] をクリックします。

3　Webブラウザを終了します(本商品のIPアドレスが192.168.1.220に変更されるため、設定更新後に設定画面は正常に表示されません)。

4　パソコンを再起動します。

以上で本商品の設定は終了です。

本商品のルータ機能を無効にした場合、本商品のWANポートはLANポートとして使用できます。

ルータ機能を無効にするとDHCPサーバの機能も停止します。本商品のDHCPサーバ機能を使用してパソコンのIPアドレスを自動取得にしている場合は、IPアドレスの取得方法を変更する必要がある場合があります。

本商品のログイン名(ユーザ名)、パスワードを変更したいときは

本商品のログイン名（ユーザ名）、パスワードは、次の手順で変更できます。

1　設定画面を起動し、「管理」を選択します。

2　「管理者ログイン名」、「管理者ログイン・パスワード」に設定するログイン名とパスワードを入力します。

3　「パスワードの確認」にもう一度新たに設定するパスワードを入力し、［設定］をクリックします。

4　設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

最新のファームウェアを入手してアップデートしたいときは

本商品の機能強化のため、予告なくファームウェアのバージョンアップを行うことがあります。最新のファームウェアはコレガホームページ（http://corega.jp/）から入手してください。また、設定画面から最新のファームウェアダウンロードページに接続することもできます。詳しくは「PART2 設定画面を見てみよう」の「ファームウェア更新」（P.79）をご覧ください。

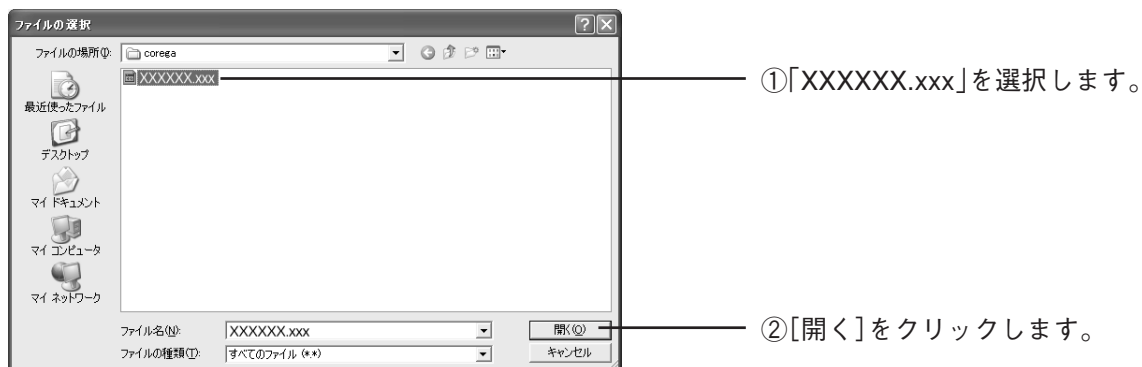
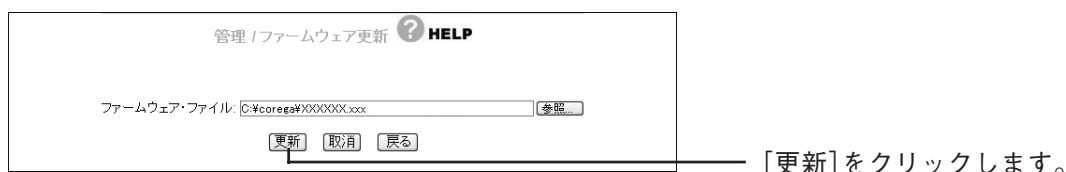
- 更新するファームウェアのバージョンによっては、お客様が更新前に設定されたデータが反映されない場合があります。
- ファームウェアをアップデートする前に「バックアップを取る」（P.43）をご覧になり、本商品の設定内容を控えておいてください。
- ファームウェアをアップデート中は、ほかの操作を行ったり、本商品の電源を切ったりしないでください。ファームウェアのアップデートに失敗したり、本商品の故障の原因となる場合があります。

ここでは「C:¥corega」という名前のフォルダに「XXXXXX.xxx」というファイルを保存した場合を例として説明します。

1　設定画面を起動し、「管理」を選択します。

2　「ファームウェア更新」を選択します。

3　［参照］をクリックします。

4 「C:¥corega」内の「XXXXXX.xxx」を選択し、[開く] をクリックします。

5 [更新] をクリックします。

6 次の画面が表示されますので、[OK] をクリックし、ファームウェアのアップデート処理を開始します。

7 アップデート処理が終了したら、初期化ボタンを 10 秒以上押して本商品を工場出荷時の状態に戻してください。詳しくは「本商品を工場出荷時の状態（初期値）に戻すには」（P.46）をご覧ください。

注意 **ファームウェアのアップデート後に工場出荷時の状態に戻すには、設定画面からではなく必ず本商品背面の初期化ボタンを使用してください。**

以上でファームウェアのアップデートは終了です。

メモ **設定内容を控えている場合は「元に戻す」(P.44) をご覧になり、設定内容を反映させてください。**

●ファームウェアのアップデートに失敗した

本商品のファームウェアファイル以外のファイルを読み込ませた場合は、再起動します。再起動後、本商品のファームウェアファイルを用意して再度ファームウェアのアップデートを行ってください。

本商品の設定のバックアップを取る／元に戻すときは

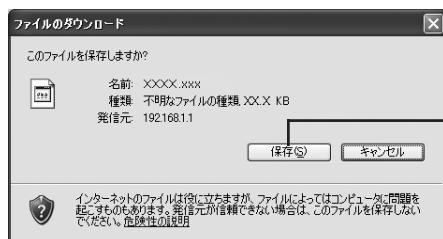
現在の設定内容をバックアップすると、何らかの原因で設定内容が壊れたりした場合に、保存してあるバックアップファイルを使用して設定を元に戻すことができます。

バックアップしたファイルは、更新されたファームウェアのバージョンによって反映されない場合があります。

●バックアップを取る

1　設定画面を起動し、「管理」を選択します。

2　「設定保存」の欄の［保存］をクリックします。

3　「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスが表示されますので、［保存］をクリックします。

4　「名前を付けて保存」のダイアログボックスが表示されますので、保存する場所を指定して［保存］をクリックし、ファイルを保存します。

以上で本商品の設定内容がバックアップされました。

●元に戻す

1　設定画面を起動し、「管理」を選択します。

2　「設定読込」の欄の［読込］をクリックします。

3　次の画面が表示されますので、［参照］をクリックします。

4　「バックアップを取る」で保存したファイルを選択し、［開く］をクリックします。

5　［読込］をクリックします。

6　「設定ファイルを読み込みます。よろしいですか？」と表示されますので、［OK］をクリックします。

以上で本商品の設定を元に戻すことができました。

本商品を再起動するには

本商品を再起動するには、次のいずれかの手順を行います。本商品の設定を変更した場合には、本商品を再起動して設定内容を反映させてください。

●電源を一度抜く

AC アダプタの電源プラグを電源コンセントから一度抜き、その後再度差し込みます。

ルータが起動するまでにおよそ 2 分程度かかります。ルータの起動が完了するまでしばらくお待ちください。

●設定画面を使う

1　設定画面を起動し、「管理」を選択します。

2　「再起動」の欄の［実行］をクリックします。

3　次の画面が表示されますので、［OK］をクリックします。

4　「本製品の再起動が終了しました」と表示されますので［OK］をクリックします。

本商品を工場出荷時の状態(初期値)に戻すには

本商品を工場出荷時の状態に戻すと、今まで設定した情報が初期値に戻ってしまいますので、重要な設定をしている場合は、設定内容をメモに書き残したり、「本商品の設定のバックアップを取る／元に戻すときは」(P.43)を実行し、再設定できるようにしておいてください。本商品を工場出荷時の状態に戻すには、次の2つの方法があります。

●初期化ボタンを使う

1　本商品の電源がオンの状態で、背面の初期化ボタンを押します。初期化ボタンはクリップなど硬くて細いもので押してください。

2　初期化ボタンを10秒以上押し、初期化ボタンを離します。

3　Power LEDが点滅し、本商品が起動を開始します。

ルータが起動するまでにおよそ2分程度かかります。ルータの起動が完了するまでしばらくお待ちください。

4　Power LEDが点灯→点滅→点灯に変わり、ルータが起動したことを確認します。

5　以上で本商品が工場出荷時の状態に戻ります。

●設定画面を使う

1　設定画面を起動し、「管理」を選択します。

2　「工場出荷時の状態へ戻す」の欄の［実行］をクリックします。

3　「『工場出荷時の状態へ戻す』を実行しますか?」と表示されますので、［OK］をクリックすると本商品が工場出荷時の状態に戻ります。

パソコンのIPアドレスを調べたいときは

パソコンのIPアドレスを調べるには、次の方法を行ってください。Windows以外のOSについては、OSのヘルプや取扱説明書をご覧ください。

●Windows XP／2000の場合

1　「スタート」－「すべてのプログラム」（Windows 2000の場合は「プログラム」）－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」の順に選択します。

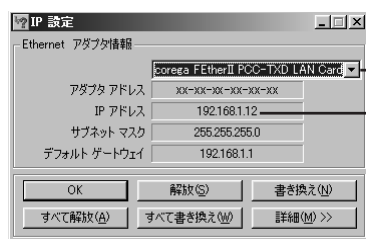
2　キーボードから「ipconfig」と入力して、「Enter」キーをクリックします。パソコンのIPアドレスが表示されます。

3　IPアドレスを確認します。

●Windows Me／98SEの場合

1　「スタート」－「ファイル名を指定して実行」の順に選択します。

2　「名前」の欄に「winipcfg」と入力して、［OK］をクリックします。

3　パソコンで使用しているネットワークアダプタを選択すると、パソコンのIPアドレスが表示されます。正しく表示されない場合は、［解放］をクリックした後、［書き換え］をクリックしてください。

PART 2 設定画面を見てみよう

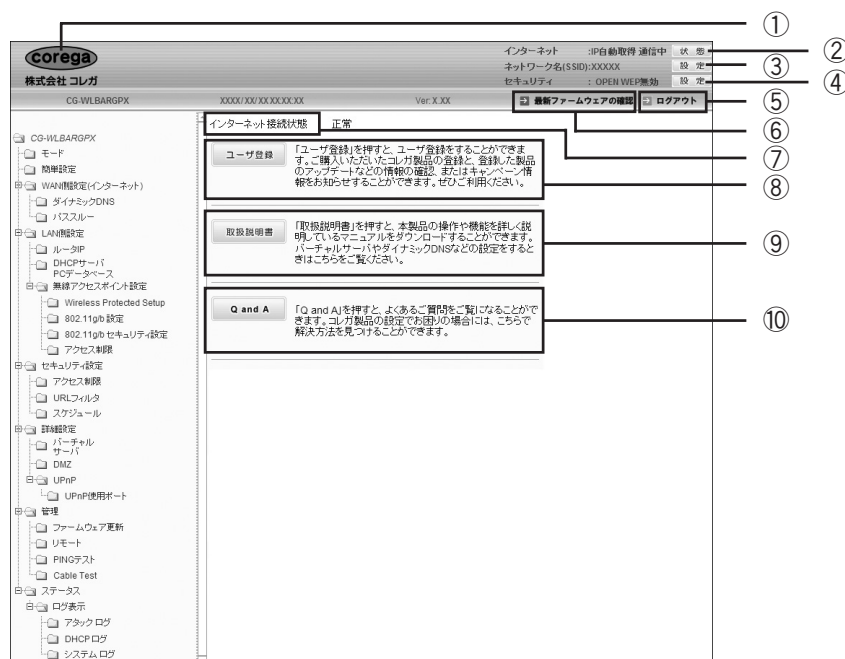
このPARTでは、本商品の設定画面について説明します。本商品を使っていて「機能を使いこなしたい」、「設定画面の詳しい情報が知りたい」と思ったときは、このPARTで項目を探してください。

設定画面の全体構成について

設定画面の各機能

- このPARTでは例を使用して説明しています。実際にはご使用の環境に合った値を入力してください。
- 各画面にある［HELP］をクリックすると説明が表示されます。
- 各画面の例は、PPPoE接続の画面です。IP自動取得接続やIP固定接続では、画面が例と異なる場合があります。

●CG-WLBARGPX（トップページ）

インターネットに接続している場合の起動時の状態です。インターネットに接続していない場合は簡単設定画面を表示します。

① **コレガロゴ**
インターネット接続時にクリックすると、コレガホームページを表示します。

② **インターネット［状態］**
「ステータス」画面（P.82）を表示します。

③ **ネットワーク名（SSID）［設定］**
「802.11g/b設定」画面（P.66）を表示します。

④ **セキュリティ［設定］**
「802.11g/bセキュリティ設定」画面（P.68）を表示します。

⑤ **［ログアウト］**
ログアウトします。再ログインする場合は［再ログイン］をクリックします。

⑥ **［最新ファームウェアの確認］**
インターネット接続時にクリックすると、本商品の最新ファームウェアの有無を確認します。

⑦ **インターネット接続状態**
インターネットの接続状態を表示します。

⑧ **［ユーザ登録］**
インターネット接続時にクリックすると、ユーザ登録をすることができます。

⑨ **［取扱説明書］**
インターネット接続時にクリックすると、コレガホームページを表示して詳細設定ガイド（本書）などの各取扱説明書の最新版をダウンロードすることができます。

⑩ **［Q and A］**
インターネット接続時にクリックすると、コレガホームページのよくあるお問い合わせを表示します。

●モード

「ルータ機能」と「無線アクセスポイント機能のモード切り替えを設定します。

③　④

①ルータ機能
ルータ機能の有効／無効を設定します。

- **有効**
  ルータ機能を使用します（初期値）。
- **無効**
  ルータ機能を使用しません。

②無線アクセスポイント機能
無線アクセスポイント機能の有効／無効を設定します。

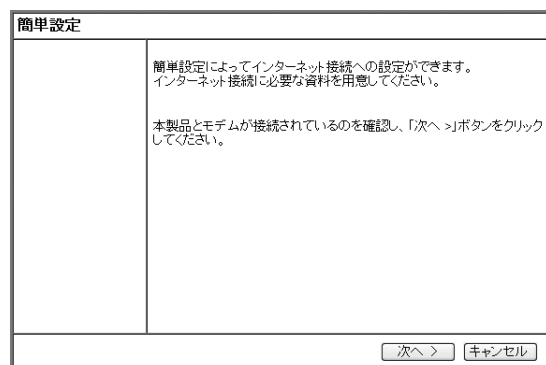
- **無線アクセス有効**
  無線アクセスポイント機能を使用します（初期値）。
- **無線アクセス無効**
  無線アクセスポイント機能を使用しません。

③［設定］
設定した内容を保存します。

④［戻る］
「トップページ」画面（P.49）に戻ります。

●簡単設定

簡単にインターネット接続の設定ができます。設定の詳細については、付属の「お使いの手引き」の「PART2 設定する - ルータをお使いの環境にあわせて設定する」をご覧ください。

本商品のルータ機能が無効の場合は表示されません。

●WAN側設定(インターネット)

WAN 側の通信方法を設定できます。

本商品のルータ機能が無効の場合は表示されません。

① リンク速度

WAN側ポートのリンク方法を設定できます。

・自動、100M Full、100M Half、10M Full、10M Half

WAN側ポートのリンク方法を自動、100MbpsのFull Duplex、100MbpsのHalf Duplex、10MbpsのFull Duplex、10MbpsのHalf Duplexから選択します(初期値：自動)。
通常は「自動」から変更する必要はありません。WAN側が正常にリンクできない場合にお試しください。

② MDI切替

MDIの切替方法を設定できます。

・自動

MDIを自動で設定します(初期値)。

③ 接続方法

WAN側通信の接続方法を設定できます。お使いの回線によって選択します。

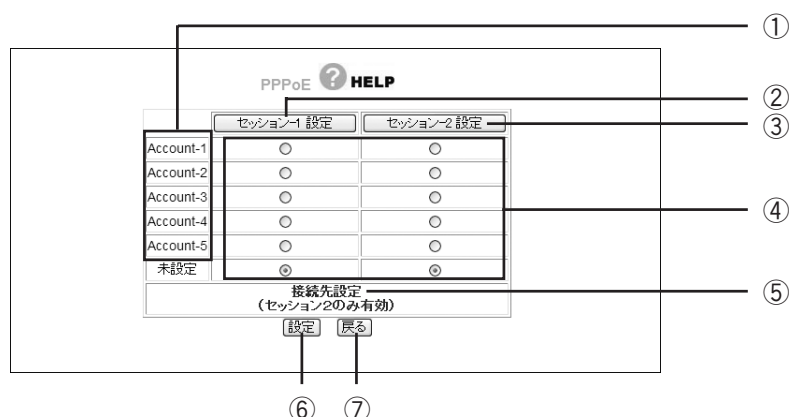
・PPPoE

フレッツ・ADSL、Bフレッツなどで接続する場合に選択します。詳しい設定画面は「PPPoE」画面(P.52)をご覧ください。
設定方法は付属の「お使いの手引き」の「PART2 設定する-ルータをお使いの環境にあわせて設定する」をご覧ください。
マルチPPPoEの設定方法は「マルチPPPoEで2つの接続先を使い分けるには」(P.32)をご覧ください。
Unnumbered IPの設定方法は「複数固定IPサービスを利用するには(Unnumbered IP／Unnumbered IP+Private IP)」(P.35)をご覧ください。

・IP自動取得(DHCP)／IP固定

Yahoo!BB、CATVなど、IPアドレスを自動で取得する場合や、IPアドレスを固定で割り振られている場合に選択します。詳しい設定画面は「IP自動取得(DHCP)/IP固定」画面(P.58)をご覧ください。
IP自動取得(DHCP)の設定方法は付属の「お使いの手引き」の「PART2 設定する-ルータをお使いの環境にあわせて設定する」をご覧ください。

■ PPPoE

PPPoE アカウント設定とセッション設定を管理します。

①アカウント名

アカウント名を表示します。表示する内容を「アカウント名変更」画面(P.57)で変更することができます。

② [セッション-1設定]

セッション-1の設定を行います。詳しい設定画面は「セッション-1設定」(P.53)をご覧ください。

③ [セッション-2設定]

マルチPPPoEを使用するためにセッション-2の設定を行います。

セッション-2を接続する場合は、⑤「接続先設定(セッション2のみ有効)」も設定する必要があります。詳しい設定画面は「セッション-2設定」(P.56)をご覧ください。

マルチPPPoEの設定方法は「マルチPPPoEで2つの接続先を使い分けるには」(P.32)をご覧ください。

④アカウント選択

PPPoEアカウントとセッション-1、セッション-2の組み合わせを設定します。

⑤接続先設定(セッション2のみ有効)

マルチPPPoEを使用する場合にどの通信をセッション-1で行い、どの通信をセッション-2で行うかを設定します。詳しい設定画面は「接続先設定」(P,56)をご覧ください

⑥ [設定]

設定した内容を保存します。

⑦ [戻る]

「トップページ」画面(P.49)に戻ります。

○セッション-1 設定

セッション-1の設定を行います。設定前にプロバイダより指定された「接続ユーザーID」、「接続パスワード」などをご確認ください。

① セッション選択

設定したいセッションを選択します。「PPPoE」画面(P.52)で[セッション-1設定]をクリックした場合はセッション-1が選択されています。

② [接続]

無通信時にクリックすると接続します。

③ [切断]

通信中にクリックすると切断します。

④ 接続状態

現在のセッションの接続状態を表示します。

⑤ セッションID

セッションIDを表示します。

⑥ アカウント選択

使用するアカウントを選択・登録できます(「セッション-1」で使用したアカウントは「セッション-2」では使用できません)。

アカウントを選択して、⑨～⑱にプロバイダより指定された設定項目を設定します。

⑦ [アカウント名変更]

「PPPoE」画面(P.52)のアカウント選択で表示される名称を変更することができます。詳しい設定画面は「アカウント名変更」(P.57)をご覧ください。

⑧ MACアドレス

本商品のWAN側(インターネット側)MACアドレスを表示します。

⑨ 接続ユーザーID

プロバイダ(ISP)より指定されたアカウントの接続ユーザーIDを入力します。

⑩ 接続パスワード

プロバイダより指定されたアカウントの接続パスワードを入力します。

⑪ 接続パスワードの確認

確認のため、再度⑩で入力した接続パスワードを入力します。

⑫ 接続方法

接続開始の方法を設定します。

・**常時接続**
常時インターネットに接続します。何らかの原因で通信が切断された場合も自動的に再接続します。

・**トリガ接続**
インターネットへの通信が発生したときに自動的に接続します。何らかの原因で通信が切断された場合は、次にインターネットへの通信が発生したときに接続します。

・**手動接続**
［接続］をクリックしない限りインターネットに接続しません。

⑬ 無通信時間監視

インターネットへの通信を行わなくなってから自動切断までの時間（分）を設定します（トリガ接続、手動接続の場合のみ）。

⑭ MTU値

MTUの値を設定します。右側の「自動調整」にチェックを付けるとMTU値が自動的に調整されます。「自動調整」のチェックを外すと576～1492バイトの範囲で設定できます。通常は自動調整のままでご使用ください。

⑮ PPPoEサービス・タイプ

使用するPPPoEのサービスタイプを選択します。

・PPPoE
通常のPPPoE接続、またはセッション-2を使用したマルチPPPoEを利用する場合に設定します。⑯ルータIPおよび⑰サブネットマスクは設定しません。

・Unnumbered IP
複数のグローバルIP※1を割り当てるサービスを利用する場合に設定します（セッション-2使用不可）。⑯「ルータIP」と⑰「サブネットマスク」に設定するグローバルIPは、本商品のIPアドレスとしてWAN側／LAN側IPアドレスに設定されます。本商品に接続するパソコンにもグローバルIPを固定で設定します。
Unnumbered IPの設定方法は「複数固定IPサービスを利用するには（Unnumbered IP/Unnumbered IP ＋Private IP）」（P.35）をご覧ください。

・Unnumbered IP＋Private IP
複数のグローバルIPを割り当てるサービスとプライベートIP※2を同時に利用する場合に設定します（セッション2使用不可）。
複数のグローバルIPを割り当てるサービスを利用しつつ、IPマスカレード※3機能を利用してプライベートIPのパソコンを接続することができます。グローバルIPをパソコンで使用する場合は、パソコンにグローバルIPを固定で設定します。プライベートIPをパソコンで使用する場合は、IP自動取得に設定します。
Unnumbered IPの設定方法は「複数固定IPサービスを利用するには（Unnumbered IP/Unnumbered IP ＋Private IP）」（P.35）をご覧ください。

※１ インターネットで使用されるIPアドレスのことです。グローバルIPアドレスとも呼びます。
※２ イントラネットやLAN組織内で自由に発行できるIPアドレスのことです。プライベートIPアドレスとも呼びます。
※３ １つのグローバルIPを複数のパソコンで共有する機能（ルータ機能）です。プライベートIPとグローバルIPを相互に変換することで実現できます。

⑯ルータIP

複数固定IPサービスでプロバイダから割り当てられたグローバルIPを入力します（⑮でUnnumbered IPおよびUnnumbered IP＋Private IPを選択した場合のみ）。

⑰サブネットマスク

複数固定IPサービスでプロバイダから割り当てられたサブネットマスクを入力します（⑮でUnnumbered IPおよびUnnumbered IP+Private IPを選択した場合のみ）。

⑱DNSサーバ

プロバイダから指定されたDNSサーバのIPアドレスを設定します。

・**自動設定**

プロバイダからDNSサーバが自動で割り当てられる場合に選択します。
※サーバの値は自動的に設定されます。

・**マニュアル設定**

プロバイダからDNSサーバが指定されている場合に選択し、IPアドレスを入力します。DNSサーバが複数指定されている場合はDNSサーバ1およびDNSサーバ2に入力します。

⑲［設定］

設定した内容を保存します。

⑳［取消］

［設定］をクリックする前に限り、現在の設定変更する前の状態に取り消します。

㉑［戻る］

「PPPoE」画面（P.52）に戻ります。

○セッション -2 設定
セッション -2 の設定を行います。

① セッション選択
設定したいセッションを選択します。「PPPoE」画面(P.52)で[セッション-2設定]をクリックした場合はセッション-2が選択されています。
※そのほかの項目はセッション-1と同じ設定内容です。

○接続先設定
セッション 2 経由で通信するルールを設定します。
セッション２でフレッツ・スクウェアに接続する場合は「マルチPPPoEで２つの接続先を使い分けるには」(P.32) をご覧ください。

① 設定リスト
③～⑨で設定した内容を表示します。

② [戻る]
「PPPoE」画面(P.52)に戻ります。

③ 接続アカウント
ルールを適用するアカウントを選択します。

④ ルール選択
ルールを選択します。

・ドメイン名
接続先をドメインで指定する場合に選択します。
⑤「ドメイン名」に入力します。

・IPアドレス
接続先をIPアドレスで指定する場合に選択します。
⑥「IPアドレス」に値を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

・ポート番号
接続先をポート番号で指定する場合に選択します。
⑧「開始ポート／終了ポート」に値を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

・ネットワーク
接続先をネットワークで指定する場合に選択します。
⑦「ネットワーク」に範囲を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

・**IPアドレス+ポート番号**
接続先をIPアドレスとポート番号で使用する場合に選択します。
⑥「IPアドレス」と⑧「開始ポート／終了ポート」に値を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

・**ネットワーク+ポート番号**
接続先をネットワークとポート番号で指定する場合に選択します。
⑦「ネットワーク」と⑧「開始ポート／終了ポート」に値を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

⑤ ドメイン名
④「ルール選択」で「ドメイン名」を選択した場合に入力します。

⑥ IPアドレス
④「ルール選択」で「IPアドレス」および「IPアドレス+ポート番号」を選択した場合に入力します。

⑦ ネットワーク
④「ルール選択」で「ネットワーク」および「ネットワーク+ポート番号」を選択した場合に入力します。

⑧ 開始ポート／終了ポート
④「ルール選択」で「ポート番号」、「IPアドレス+ポート番号」、「ネットワーク+ポート番号」を選択した場合に入力します。

⑨ プロトコル
④「ルール選択」で「ドメイン名」以外を選択した場合に、対象のプロトコルを「ALL（TCP/UDP/ICMP）」、「TCP」、「UDP」から選択できます。

⑩ [登録]
入力した内容を登録します。

○アカウント名変更

① アカウント名
アカウント名を入力します。

② [設定]
入力したアカウント名に変更します。

③ [戻る]
設定を変更せず「セッション-1設定」画面（P.53）に戻ります。

■ IP 自動取得（DHCP）／IP 固定

IP アドレスの自動割り当てまたは、固定 IP を割り当てているプロバイダでのみ使用できます。

①MACアドレス

本商品のWAN側のMACアドレスを表示します。

②タイプ

IPアドレスの取得方法を選択します。

・IP自動取得（DHCP）

プロバイダからIPアドレスを指定されていない場合に選択すると、プロバイダから自動的にIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSアドレスなどのインターネットに必要な情報を取得します。

・IP固定

プロバイダからIPアドレスをインターネット接続に必要な情報を指定された場合に選択し、「WAN側IPアドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルト・ゲートウェイ」を手動で設定します（「IP固定」を選択した場合のみ表示されます）。

③ドメイン名

プロバイダから指定された場合、ドメイン名を入力します（②を選択した場合のみ表示されます）。

④コンピュータ名

プロバイダから指定された場合、コンピュータ名を入力します（②を選択した場合のみ表示されます）。

⑤MTU値

576から1500までの範囲で割り当てることができます。接続環境に合わせて変更してください。通常は設定する必要がありません。

⑥DNSサーバ

プロバイダから指定されたDNSサーバ※のIPアドレスを入力します。

※ドメイン名と住所にあたるIPアドレス（4つの数字の列）に変換するサーバです。

・自動設定

DNSサーバのIPアドレスを知らされていないときや自動割り当ての場合に選択します。

・マニュアル設定

プロバイダよりDNSサーバのIPアドレスが指定されている場合に選択し、IPアドレスを「DNSサーバ1」、「DNSサーバ2」に入力します。

⑦［設定］

設定した内容を保存します。

⑧ [取消]
[設定]をクリックする前に限り、現在の設定変更する前の状態に取り消します。

⑨ [戻る]
「トップページ」画面(P.49)に戻ります。

■ダイナミック DNS（DDNS）
インターネット側からIPアドレスではなく、URLを使用してLAN内のバーチャルサーバに接続できるように設定できます。この機能を使用することによって、ダイナミックIPアドレスのようなIPアドレスが固定されないサービスにも対応します。

① ダイナミックDNS
利用するDNSサービスを選択します。

② ログイン名DNS
ダイナミックDNSサービスに登録したログイン名を入力します。

③ ログインパスワード
ダイナミックDNSサービスに登録したパスワードを入力します。

④ ドメイン名DNS
ダイナミックDNSサービスに登録したドメイン名を入力します。必ず取得したドメイン名を使用してください。

⑤ IPチェック時間
取得したドメイン名とIPアドレスの整合性を指定時間で確認します。

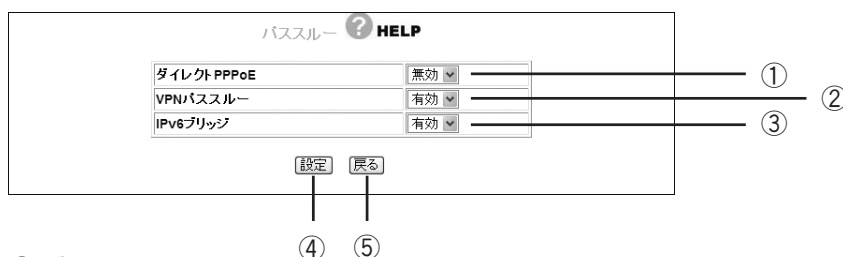
⑥ [設定]
設定した内容を保存します。

⑦ [取消]
[設定]をクリックする前に限り、現在の設定変更する前の状態に取り消します。

⑧ [戻る]
「WAN側設定(インターネット)」画面(P.51)に戻ります。

⑨ [更新]
ダイナミックDNSの状態を更新します。

■パススルー

各パケットをルーティングせずに透過する場合に設定します。

①ダイレクトPPPoE

PPPoEパススルーの有効／無効を選択します。

・有効

ダイレクトPPPoEを有効にします。本商品に接続したパソコンから外部に直接PPPoE接続する場合に有効にします。

・無効

ダイレクトPPPoEを無効にします（初期値）。

②VPNパススルー

VPNパススルーの有効／無効を選択します。

・有効

VPNパススルーを有効にします。本商品に接続したパソコンから外部に直接VPN接続する場合に有効にします（初期値）。

・無効

VPNパススルーを無効にします。

③IPv6ブリッジ

IPv6ブリッジの有効／無効を選択します。

・有効

IPv6ブリッジを有効にします。本商品に接続したパソコンから直接外部にIPv6接続する場合に有効にします（初期値）。

・無効

IPv6ブリッジを無効にします。

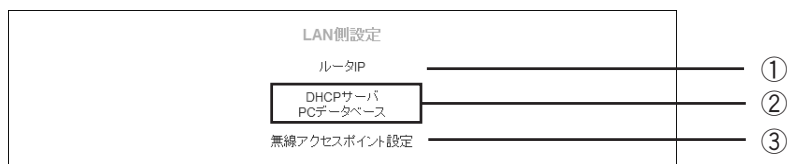
④［設定］

設定した内容を保存します。

⑤［戻る］

「WAN側設定（インターネット）」画面（P.51）に戻ります。

●LAN側設定

LAN 側の詳細な設定を行います。

①ルータIP
LAN側の設定を変更できます。

②DHCPサーバ・PCデータベース
DHCPサーバ機能や、PCデータベースの設定を変更できます。

③無線アクセスポイント設定
無線アクセスポイント機能の設定を変更できます。

■ルータ IP

LAN 側の設定を変更したい場合に設定します。

①MACアドレス
本商品のLAN側のMACアドレスが表示されます。

②LAN側IPアドレス
本商品のLAN側のIPアドレスを入力します。IPアドレスの値は「0～255」までの数字と「.」(ドット)で入力します。
※工場出荷時は「192.168.1.1」に設定されています。

③サブネットマスク
本商品のLAN側のサブネットマスクを入力します。サブネットマスクの値は「0～255」までの数字と「.」(ドット)で入力します。
※工場出荷時は「255.255.255.0」に設定されています。

④URLホーム
設定したURLをWebブラウザのアドレス欄に入力すると、本商品の設定画面のトップページを表示させることができます。
※工場出荷時は「corega.home」に設定されています。

・アドレスには「.」(ドット)を組み込んで 3 ～ 24 文字以内で設定します。
・「.」(ドット)はアドレスの先頭、末尾には使用しないでください。

⑤[設定]
設定した内容を保存します。

⑥ [取消]

[設定]をクリックする前に限り、現在の設定変更する前の状態に取り消します。

⑦ [戻る]

「LAN側設定」画面(P.61)に戻ります。

■ DHCP サーバ／ PC データベース

○ DHCP サーバ

DHCP サーバの設定を変更する場合に各項目の設定をします。

①DHCPサーバ

DHCPサーバの有効／無効を選択します。有効にすると自動的にパソコンにIPアドレスを割り振ります。

- **有効**

  DHCPサーバ機能を使用します(初期値)。

- **無効**

  DHCPサーバ機能を使用しません。

② リース期限継続方法

DHCPサーバでリースされるIPアドレスのリース期限継続方法を選択します。期限指定／無期限の指定ができます。

- **期限指定**

  DHCPサーバから割り振られるIPアドレスを定期的に更新します(初期値)。
  期限は③「リース期限」で設定します。

- **無期限**

  DHCPサーバから割り振られるIPアドレスに期限を設定しません。

③ リース期限

DHCPサーバでリースされるIPアドレスのリース期限を分単位で指定します(初期値：2日)。
※②を期限指定に指定している場合に設定できます。

④DHCP開始アドレス

DHCPサーバが割り振る最初のIPアドレスを入力します(初期値：192.168.1.21)。

⑤DHCP終了アドレス

DHCPサーバが割り振る最後のIPアドレスを入力します(初期値：192.168.1.50)。

⑥ [設定]

設定した内容を保存します。

⑦ [取消]

[設定]をクリックする前に限り、現在の設定変更する前の状態に取り消します。

⑧ [戻る]

「LAN側設定」画面(P.61)に戻ります。

○ PC データベース

本商品に接続するクライアントパソコンを登録することができます。IPアドレスを自動的に取得するパソコンは自動で登録されます。この操作はPCデータベースのリストに表示されていない場合や、IPアドレスを固定設定しているパソコンに行います。

① [編集]

登録済みのクライアントパソコンの設定を変更することができます。

② [追加]

「PCデータベース(詳細設定)」(本ページ)を開き、パソコンを手動でPCデータベースに追加できます。

③ [再読み込み]

現在の情報を更新します。

○ PC データベース（詳細設定）

手動で PC データベースに登録することができます。

① パソコン名

クライアントパソコンの「ホスト名」を入力します。

②IPアドレス

IPアドレスの取得方法を選択してます。

・自動取得(DHCPクライアント)

パソコンがDHCPクライアント(Windowsでは「IPアドレスを自動的に取得」)に設定されている場合に、本商品はDHCPサーバ(P.62)で設定した内容でパソコンにIPアドレスを割り振ります(初期値)。IPアドレスは通常変わることはありませんが、リース期間に達した場合や、長時間ネットワークから切断していた後で再接続した場合に変わる場合があります。

・固定取得（DHCPクライアント）
パソコンがDHCPクライアント（Windowsでは「IPアドレスを自動的に取得」）に設定されている場合に、本商品はDHCPサーバ（P.62）で設定した内容でパソコンにIPアドレスを割り振ります。パソコンに毎回決まったIPアドレスを割り振りたい場合に選択します。最後の空欄に、本商品のDHCPサーバ機能で設定した範囲内で1～254の任意の数字を入力します。

・固定設定（DHCP範囲以外）
パソコンが固定IPアドレスを使用している場合に選択します。パソコンに設定しているIPアドレスを入力します。

・接続タイプ
本商品とパソコン間の接続方法を選択します。有線接続しているパソコンは「LAN」を、無線接続しているパソコンは「WLAN」を選択します。

③MACアドレス
MACアドレスに関するオプションを選択します。

・自動検索（パソコンが接続されている状態）
①「パソコン名」と②「IPアドレス」の設定から登録したいパソコンのMACアドレスを自動取得します。本商品にパソコンを接続している状態で自動検索できます。自動検索が完了すると、MACアドレス欄に検索されたMACアドレスが表示されます。

・MACアドレス
登録したいパソコンのMACアドレスが分かる場合に直接入力します。本商品にパソコンを接続していない状態でも登録することができます。
MACアドレスは「ハードウェアアドレス」や「物理アドレス」、または「ネットワークアダプタアドレス」と呼ばれることがあります。本商品はパソコンを識別するためにMACアドレスを使用します。入力欄を空白にしたままでは登録することはできません。

④ [PCデータ追加]
本商品のリストに新しいパソコンを加えます。
※MACアドレス③の「自動検索」が選択されている場合、パソコン検索して取得したMACアドレスを表示します。追加するには再度[PCデータ追加]をクリックします。

⑤ [データの削除]
画面上で入力した値をクリアすることができます。

⑥ [戻る]
「PCデータベース」画面（P.63）に戻ります。

■無線アクセスポイント設定

無線 LAN のネットワーク名（SSID）や、セキュリティなどの詳細の設定を行います。

本商品の無線アクセスポイント機能が無効の場合は表示されません。

①Wireless Protected Setup設定
Wireless Protected Setupの設定を行います。

②802.11g/b設定
無線LAN通信の設定を行います。

③802.11g/bセキュリティ設定
無線LAN通信のセキュリティの設定を行います。

④アクセス制限
無線LANアダプタ(パソコン)による無線アクセスの可否の設定を行います。

○ Wireless Protected Setup

対応機器間の無線LANセキュリティを簡単に設定できるWireless Protected Setupの設定を表示します。Wireless Protected Setupは対応機種※のみ使用できます。通常は設定画面で設定を変更する必要はありません。Wireless Protected Setup で無線セキュリティを設定する場合は、付属の「補足説明書」または対応機種に付属の「無線クライアントユーティリティ詳細設定ガイド」をご覧ください。

※対応機種は CG-WLCB54GPX および CG-WLUSB2GPX です（2007 年 1 月現在）。

・Wireless Protected Setup 有効時

・Wireless Protected Setup 無効時

○ 802.11g/b 設定

IEEE802.11g/b 通信の設定を行います。

① **ネットワーク名(SSID)**

無線LANに接続する機器を識別するネットワークグループ名です。接続するすべてのパソコン(無線LANアダプタ)に同じ名前を設定します。

※工場出荷時のSSIDは本商品左側面の「ネットワーク名(SSID/MAC)」に記載されています。

② **モード**

802.11の動作モードを設定できます。

・**802.11g/b**

802.11gと802.11bを使用できます。802.11gと802.11bを混在させる場合に選択します(初期値)。

・**802.11g**

802.11gのみを使用できます。

・**802.11b**

802.11bのみを使用できます。

③ **チャンネル**

使用する電波の周波数(無線チャンネル)を「自動設定、1～13チャンネル」で選択できます。

・**自動設定(初期値)**

空きチャンネル自動検索機能で最適なチャンネルを自動で設定します。

・**1～13**

チャンネルを指定・固定したい場合に1～13チャンネルのいずれかを選択します。

通常は「自動設定」から変更する必要はありません。

④ **転送レート**

転送レート(無線LANの通信速度)を「Auto、1～54Mbps」で変更できます(初期値：Auto)。

通常は「Auto」から変更する必要はありません。

⑤ **IPv6マルチキャスト通信**

IPv6マルチキャスト通信の有効／無効を設定できます。

・**有効**

IPv6マルチキャスト通信サービス(4thメディアなど)をSTBと接続して使用する場合に選択します。

・**無効**

IPv6マルチキャスト通信を使用しません(初期値)。

⑥ステルスAP

無線LANアダプタを持つパソコンから本商品のSSIDを検索されないようにしたり、SSIDを「ANY」や空白にしているパソコンからのアクセスを拒否したりできます。

・有効

ステルスAPを有効にします。

・無効

ステルスAPを無効にします(初期値)。

⑦電波強度

本商品の電波出力の強度を「最大」(初期値)、「50%」、「25%」、「12.5%」、「最小」から選択できます。
※通常は変更する必要はありません。

⑧ビーコン間隔

アクセスポイントが常に発信する、アクセスポイントの情報の入ったショートパケット(ビーコン)の送信間隔を「20〜1000」で設定できます(初期値:100)。
※通常は変更する必要はありません。

⑨RTSしきい値

無線LANのパケットを送信する前に送信するRTS(送信要求)パケットのしきい値を「256〜2346」で設定できます(初期値:2346)。
※通常は変更する必要はありません。

⑩パケット分割のしきい値

無線LANのパケットを分割するしきい値を「256〜2346」で設定できます(初期値:2346)。
※通常は変更する必要はありません。

⑪[設定]

変更した内容に設定します。

⑫[取消]

設定を変更せずに取り消します。

⑬[戻る]

「無線アクセスポイント設定」画面(P.65)に戻ります。

○ 802.11g/b セキュリティ設定

802.11g/b 通信のセキュリティの設定を行います。

①認証方式

無線セキュリティの認証方式を選択します。

・OpenSystem

無線セキュリティを使用しない、またはWEPを使用する場合に選択します（初期値）。

・SharedKey

WEPを使用する場合に選択します。

・WPA2-PSK

WPA2-PSKを使用する場合に選択します。

・WPA/WPA2-PSK

WPA2-PSKまたはWPA-PSKを使用する場合に選択します。

②暗号方式

無線セキュリティの暗号方式を設定します。①「認証方式」によって、選択できる暗号方式が変わります。

・無効

OpenSystemを使用する場合に選択できます。
無線セキュリティを使用しません（初期値）。

・WEP

OpenSystemまたはShared Keyを使用する場合に選択できます。
暗号化にWEPを使用します。

・自動（AES／TKIP）

WPA/WPA2-PSKを使用する場合に選択できます。
暗号化にAESかTKIPかを使用できます。

・AES

WPA2-PSKを使用する場合に選択できます。
暗号化にAESを使用します。
※AES＞TKIP＞WEPの順番で暗号の解読が困難になります。

③暗号化

WEPを選択した場合に、暗号強度を64Bit、128Bit、152Bitの16進数またはASCII文字列から選択します。

④ WEPキー

暗号化の選択後、WEPキー(暗号キー)を入力し、「キー1～4」から1つを選択します。「キー1～4」のそれぞれに、設定する暗号キーを直接入力します。

⑤ WPA共有キー

WPA/WPA2-PSKとWPA2-PSKを選択した場合に、初回アクセス時に使用する任意のキーを「ASCII文字(8～63文字)」(初期値)または「16進数(64文字)」で入力します。

⑥ DTIM

DTIM(配信トラフィック・インディケータ・メッセージ)の通信間隔の値を「1～5」設定します(初期値：1)。

※通常は変更する必要はありません。

⑦ プリアンブルモード

プリアンブルのモードを「自動」(初期値)、「短いプリアンブル」、「長いプリアンブル」から設定できます。

※通常は変更する必要はありません。

⑧ 更新間隔

WPA共有キーの更新間隔を「0※、300～1800秒」で設定します(初期値：300)。

※更新間隔を0にした場合は、WPA共有キーを更新しません。

⑨ [設定]

変更した内容に設定します。

⑩ [取消]

設定を変更せずに取り消します。

⑪ [戻る]

「無線アクセスポイント設定」画面(P.65)に戻ります。

⑫ [セキュリティ情報書出し]

現在のセキュリティ設定をテキストで表示します。

○アクセス制限
接続を許可する無線クライアントの設定などを行います。

①無線端末間通信
無線端末（パソコンなどのクライアント）同士の通信の制限を設定できます。

・有効
無線端末間の通信を有効にします（初期値）。

・無効
無線端末間の通信を無効にします。不特定多数の端末がアクセスするような環境でプライバシーを守ることができます。

②無線－有線間端末通信
有線端末と無線端末間の通信の制限を設定できます。

・有効
有線端末と無線端末間の通信を有効にします（初期値）。

・無効
有線端末と無線端末間の通信を無効にします。不特定多数の端末がアクセスするような環境でプライバシーを守ることができます。

③MACアドレスフィルタリング
MACアドレスを登録した無線端末のみ通信を許可します。

④MACアドレス
通信を許可したいMACアドレスを手動でリストに登録することができます。

⑤リスト
PCデータベースに登録されたクライアントの中から無線端末を表示します。
リストでチェックを付けたクライントのみ通信を許可します。

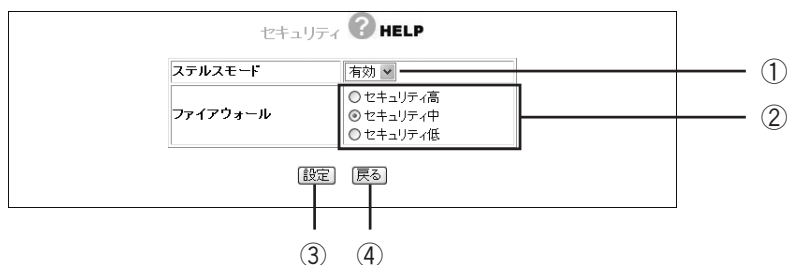
⑥[設定]
変更した内容に設定します。

⑦[取消]
設定を変更せずに取り消します。

⑧[戻る]
「無線アクセスポイント設定」画面（P.65）に戻ります。

●セキュリティ設定

WAN 側からのアクセスに対するセキュリティ設定ができます。

メモ 本商品のルータ機能が無効の場合は表示されません。

①ステルスモード

WAN(インターネット)側へのPINGリクエスト(通信確認リクエスト)の応答を設定できます。

・**有効**

WAN側からのPINGに応答しなくなり、本商品の存在を隠すことができます(初期値)。

・**無効**

WAN側からのPINGに応答し、本商品の存在を確認できます。お互いの存在を確認しながらインターネット接続を行う場合にはこちらを選択します。

②ファイアウォール

ファイアウォールを通過するパケットのデータを読み取り、内容を判断して自動的にポートを開放・閉鎖します。セキュリティが高いほど安全ですが、通信速度が遅くなる場合があります。

③[設定]

変更した内容に設定します。

④[戻る]

「トップページ」画面(P.49)に戻ります。

■アクセス制限

本商品に接続しているパソコンから、インターネットへのアクセスの許可または禁止を設定することができます。

①制限するIPアドレス

アクセスを制限したいIPアドレスの範囲を登録します。

②制限するサービス

アクセスを制限するサービスを一覧「WWW(ウェブブラウズ)」、「E-mail送信」、「E-mail受信」、「Secure HTTP」、「FTP」、「全てのTCPポート」、「全てのUDPポート」、「ユーザ定義」(初期値)から選択します。

③プロトコル

制限するサービスで「ユーザ定義」を選択した場合にプロトコルを「TCP(初期値)、UDP」から選択します。

④制限するポート範囲

制限するサービスで「ユーザ定義」を選択した場合に任意のポートを指定できます。

⑤スケジューリング(スケジュール設定を使用します)

制限する時間を選択することができます。

- **常に制限**

  常時アクセスを制限します。

- **スケジュール**

  「スケジュール」画面(P.74)で登録した時間でアクセス制限をかけることができます。

⑥[登録]

設定した内容で登録します。

⑦アクセス制限テーブル(最大10まで)

登録されたアクセス制限を表示します。

⑧[戻る]

「セキュリティ設定」画面(P.71)に戻ります。

■ URL フィルタ

登録した文字列が含まれる URL へのアクセスを制限することができます。

①説明

アクセス制限の説明を付けることができます。

②制限するIPアドレス

URLフィルタの対象にするパソコンのIPアドレスを範囲指定できます。

③URLまたはキーワード

アクセスを制限したいURLやキーワードを登録します。
例：violence

④[登録]

設定した内容で登録します。

⑤URLフィルタテーブル（最大10まで）

登録されたURLフィルタを表示します。

⑥[戻る]

「セキュリティ設定」画面（P.71）に戻ります。

■スケジュール

本項目で設定した時間帯にアクセス制限を行うことができます。設定した時間帯は「アクセス制限」画面（P.72）で指定して実行してください。

① 名前

スケジュールに任意の名前を付けることができます。
登録した名前が「アクセス制限」画面（P.72）のスケジューリングに表示されます。

② コメント

任意の説明文を付けることができます。

③ スケジュール

ここで時間帯を設定します。24時間表記で入力します。

・曜日

制限したい曜日の「開始時間」と「終了時間」に数値を入力します。

・開始時間

制限を開始する時間を入力します。

・終了時間

制限を終了する時間を入力します。

④ [登録]

設定した内容で登録します。

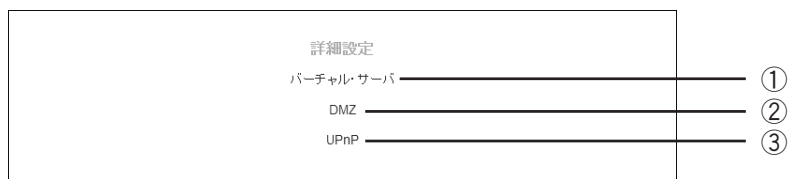
⑤ スケジュールテーブル（最大10まで）

登録されたスケジュールを表示します。

⑥ [戻る]

「セキュリティ設定」画面（P.71）に戻ります。

●詳細設定

本商品の詳細設定ができます。

①バーチャル・サーバ
　インターネットにサーバを公開するなど、インターネットにポートを開放する場合に設定します。

②DMZ
　UPnPに対応していないソフトウェアや、開放するポートが分からない場合に設定します。

③UPnP
　UPnPに対応したソフトウェアを使用する場合に設定します。

■バーチャルサーバ

インターネットにサーバを公開するなど、インターネットにポートを開放する場合に設定します。
設定方法は「ポートを開放するには」（P.30）をご覧ください。

① 接続先

バーチャルサーバ機能を使用するパソコンをリストから選択します。
PCデータベースに登録されたパソコンがリストに表示されます。

② サービス

使用するサービスを選択します。

③ ポート範囲

使用するポートの範囲を入力します。「詳細設定」を選択すると、WAN側とLAN側のポート範囲が入力できます。

④ プロトコル

使用するプロトコルを設定します。

⑤ 備考

サーバの説明を付けることができます。
※空欄のままでも使用できます。

⑥ [登録]

設定した内容で登録します。

⑦ バーチャルサーバリスト

登録した内容を表示します。

⑧ [戻る]

「詳細設定」画面（P.75）に戻ります。

- ①の接続先で、サーバとなるパソコンが表示されない場合、PCデータベースでサーバとなるパソコンを登録する必要があります。登録方法は「PC データベース」（P.63）をご覧ください。
- パソコンをサーバとして使用するには、パソコン上でサーバソフトを実行している必要があります。
- ダイナミック DNS（DDNS）を使用することで、より簡単に WAN 側から LAN 側のサーバに接続することができます。
- 本商品の WAN 側 IP アドレスとポート番号を指定したアクセスは、バーチャルサーバ機能によって指定したパソコンにします。同じ LAN 内で同種類のサーバを使用する場合は、ポート番号が重複しないようにしてください。

■ DMZ

インターネットにサーバを公開するなど、インターネットにポートを開放する場合に設定します。
UPnP に対応していないソフトウェアや、開放するポートが分からない場合に設定します。
「バーチャルサーバ」（P.76）を使って接続できない場合に使用します。

① DMZホスト

DMZ機能を使用するパソコンを選択します。
PCデータベースに登録されたパソコンがリストに表示されます。

DMZ 機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

メモ **ダイナミック DNS（DDNS）を使用することで、より簡単に WAN 側から LAN 側のサーバに接続することができます。**

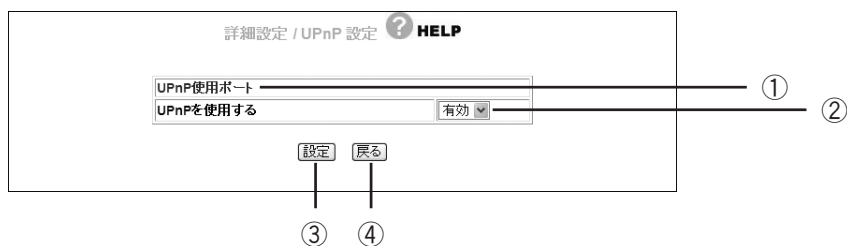
② [設定]

選択したパソコンで設定します。

③ [戻る]

「詳細設定」画面（P.75）に戻ります。

■ UPnP

UPnP※に対応したソフトウェアを使用する場合に設定します。
※ UPnP 機能は Windows XP で使用できます。

① UPnP使用ポート

UPnPで使用しているポートを確認できます。

② UPnPを使用する

UPnPの「有効」（初期値）、「無効」を選択します。

③ [設定]

変更した内容で設定します。

④ [戻る]

「詳細設定」画面（P.75）に戻ります。

○ UPnP 使用ポート

UPnP で使用しているポートを確認できます。

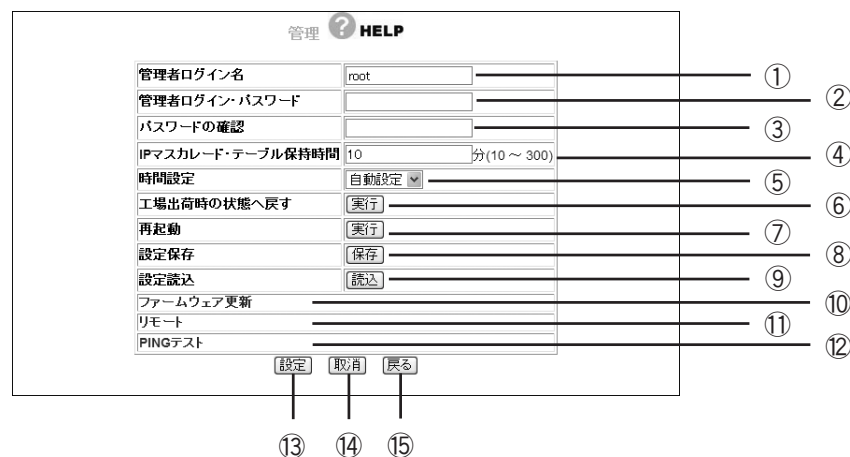
①UPnPポートリスト

使用しているUPnPの内容を表示します。

② [戻る]

「UPnP」画面(P.77)に戻ります。

●管理

本商品のログイン名やパスワードなどを設定できます。

①管理者ログイン名

設定画面へのログイン名を変更します(初期値：root)。

②管理者ログイン・パスワード

設定画面へのログイン・パスワードを設定できます(初期値：空欄)。

③パスワードの確認

確認のため、再度②で入力したパスワードを入力します。

④IPマスカレード・テーブル保持時間

IPマスカレードのテーブル保持時間を「0～300」分で設定できます(初期値：10分)。
設定時間を長くすることで、FTPサーバなどへの長時間の接続に対応します。通常のインターネット接続などでは設定する必要はありません。

⑤時間設定

本商品の時間設定ができます。

・自動設定

NTPサーバを検出して自動で時刻を設定します。

・手動設定

「年／月／日」の順に設定します。

⑥ 工場出荷時の状態へ戻す
本商品に設定されている内容をすべて工場出荷時(初期値)の状態に戻します。

・[実行]
工場出荷時の状態に戻します。

メモ 実行する前に設定内容は控えておくことをお勧めします。

⑦ 再起動
[実行]で本商品を再起動します。

⑧ 設定保存
[保存]で現在の設定内容をファイルに保存することができます。

⑨ 設定読込
[読込]で保存した設定内容を読み込みます。

⑩ ファームウェア更新
「ファームウェア更新」画面(本ページ)を表示します。

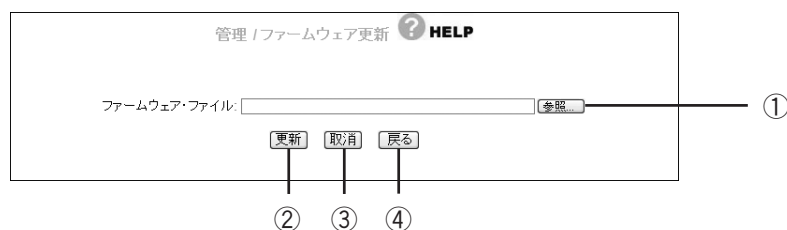
⑪ リモート
「リモート」画面(P.80)を表示します。
WAN(インターネット)側から本商品の設定画面を開く場合に設定します。

⑫ PINGテスト
「PINGテスト」画面(P.81)を表示します。
本商品からPINGテストを実行する場合に表示します。

⑬ [設定]
変更した内容で設定します。

⑭ [取消]
設定を変更せずに取り消します。

⑮ [戻る]
「トップページ」画面(P.49)に戻ります。

■ファームウェア更新
コレガホームページからダウンロードした最新のファームウェアを本商品に読み込ませることができます。

① [参照]
ダウンロードしたファームウェアの保存先を選択します。

② [更新]
ファームウェアファイルを選択後、[更新]をクリックするとファームウェアの更新を開始します。

③ [取消]
ファームウェアの更新を中断します。

・更新中は絶対に本商品の電源を切らないでください。
・更新中にブラウザの操作をすると、ファームウェアの更新は中断されます。

④ [戻る]
「管理」画面(P.78)に戻ります。

■リモート
WAN（インターネット）側から本商品の設定画面を開く場合にあらかじめこの設定をしておきます。

① リモート設定
リモート設定の有効／無効を選択します。

・有効
WAN側から本商品の設定ができます。

・無効
WAN側から本商品の設定はできません(初期値)。

② ポート
リモート設定を有効にした場合に、「1～9600」でポート番号を入力します(初期値：8080)。

③ [設定]
変更した内容で設定します。

④ [戻る]
「管理」画面(P.78)に戻ります。

・リモート機能で設定したポート番号は、バーチャルサーバなどでは使用できません。
・インターネット側（WAN側）から接続する場合は、次の例のようにIPアドレスの後ろにポート番号を指定します。WAN側のIPアドレスは「ステータス」画面（P.82）で確認できます。
例：http://XX.XX.XX.XX.XX：□□

・ダイナミックDNS（DDNS）を使用することで、IPアドレスではなくダイナミックDNS名で接続することができます。

■ PING テスト

本商品に接続しているほかのパソコンが、通信可能な状態かどうか確認するためのテストをします。

①宛先アドレス

テストを実行するパソコンのIPアドレスを入力します。

② [実行]

①でIPアドレスを入力後、[実行]をクリックするとPINGテストを開始します。

③実行結果

PINGテストの結果が表示されます。

■ CableTest

使用しているポートのリンク速度を表示します。

①Ports

WAN、LAN1～4のそれぞれの状態を確認できます。

②Link Type

接続状態を「100Full、100Half、10Full、10Half、Disconnect」で表示します。

③ [More Info]

詳細情報を表示します。

④ [更新]

表示内容を更新します。

●ステータス

本商品のステータスを表示します。

・IP 自動取得（DHCP）の場合

① [開放]
WAN側IPアドレスを開放します。

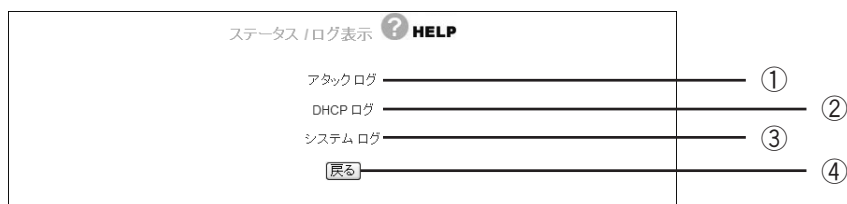
② [再取得]
WAN側IPアドレスを再取得します。

③ [更新]
表示している情報を更新します。

・PPPoE の場合

① [更新]
表示している情報を更新します。

■ログ表示

本体のログ情報を表示します。

［更新］をクリックすることで最新の情報に書き換えられます。

①アタックログ

DoSアタック※が発生した際に、そのログを保存します。

※インターネットにつながっているパソコンやルータなどに大量の不正なデータを送り、使用不能にさせる不正アクセスの1つです。

②DHCPログ

本商品のDHCPサーバ機能の稼動状況を表示します。

③システムログ

本商品へのアクセス履歴などを表示します。

④［戻る］

「ステータス」画面（P.82）に戻ります。

MAC アドレスについて

ご契約されているプロバイダやインターネットサービスによっては、インターネットに接続できる機器を事前に申請する必要があります。その場合、ADSL モデムなどに直接接続するネットワーク機器（本商品も含むパソコンなど）の MAC アドレスをプロバイダに事前申請してください。
本商品の WAN 側の MAC アドレスは本体左側面に記載されております。
なお、LAN 側の MAC アドレスについては、設定画面の「ステータス」（P.82）で確認できます。

おことわり

・本書は、株式会社コレガが作成したもので、すべての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
・予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
・改良のため商品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本商品は国内仕様となっており、外国の規格などには準拠しておりません。日本国外で使用された場合、弊社ではいかなる責任も負いかねます。

2007 年 1 月　初版